



**DOJIN**  
**R18**  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止



読んで下さる皆様へ

この物語は史実を元にした

フィクションです。

実在の人物・団体・事件とは

一切関係がありません。



いっち  
いっちー

おーい！



でもホントに  
入んの？

当然！

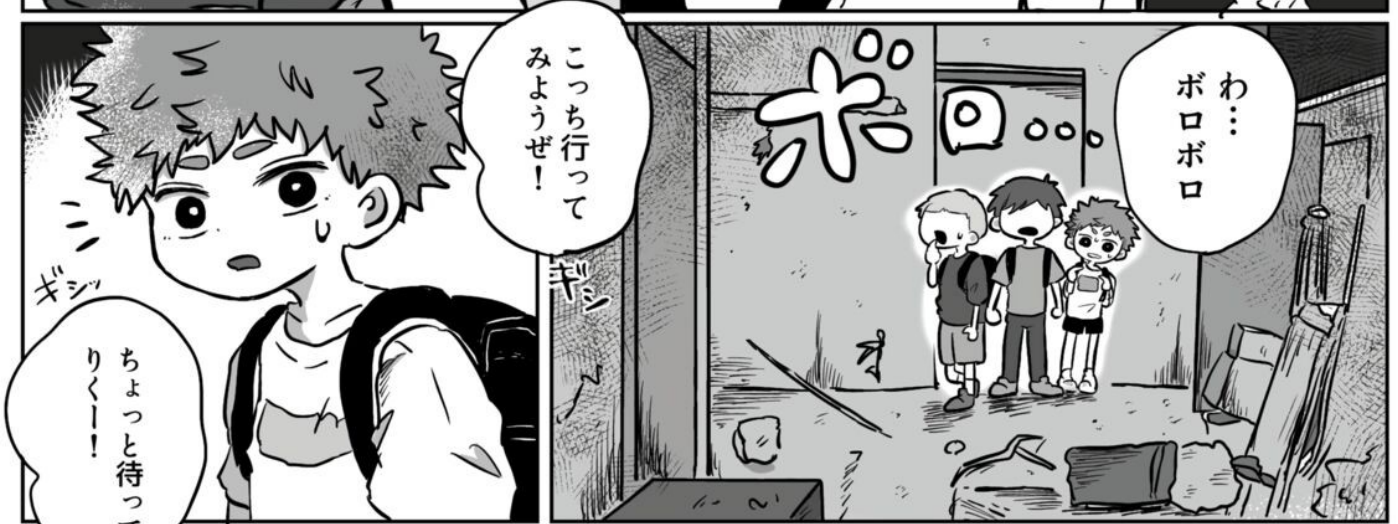
りんた  
倫太おまえ  
ビビってんだろ

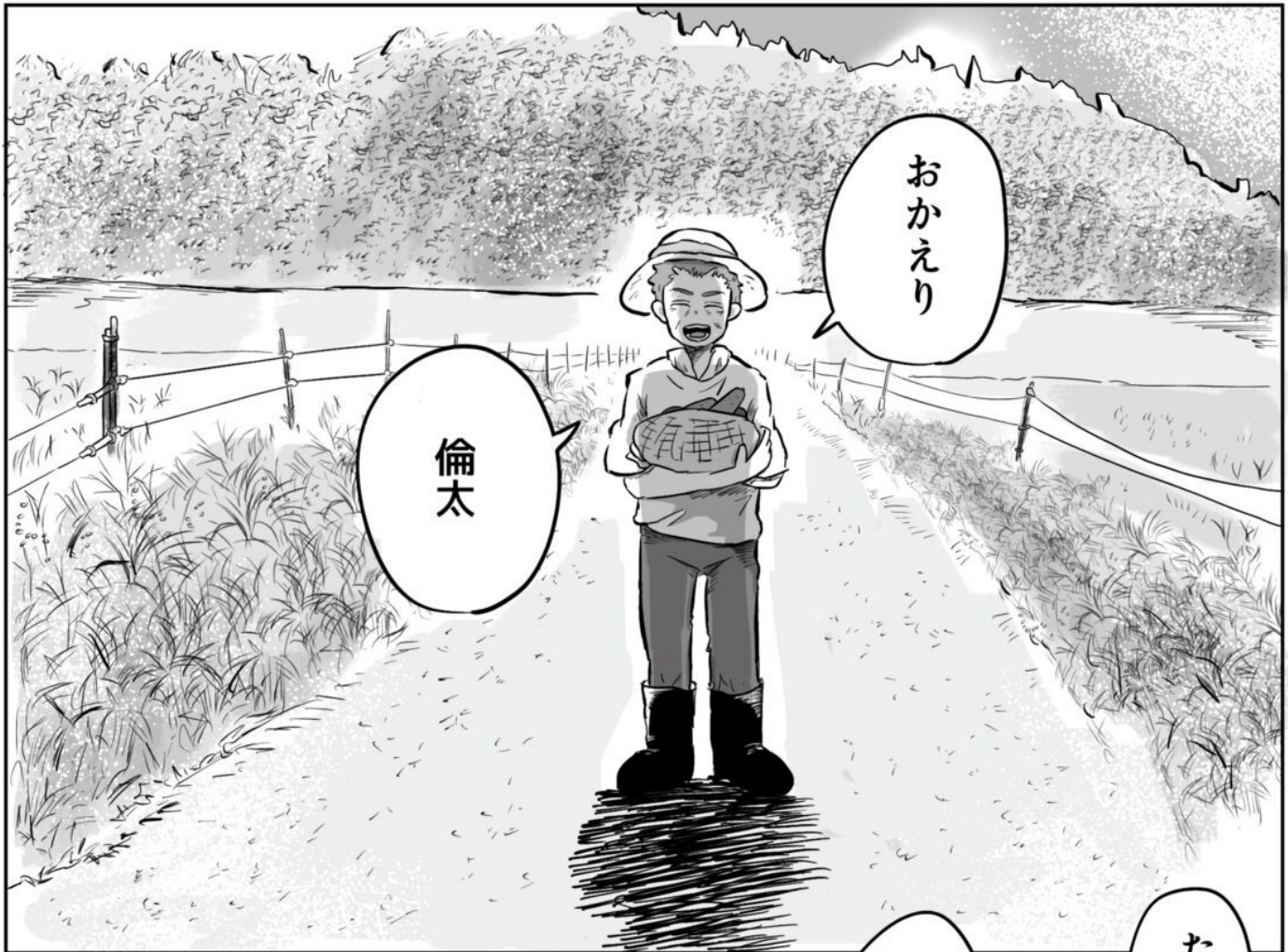


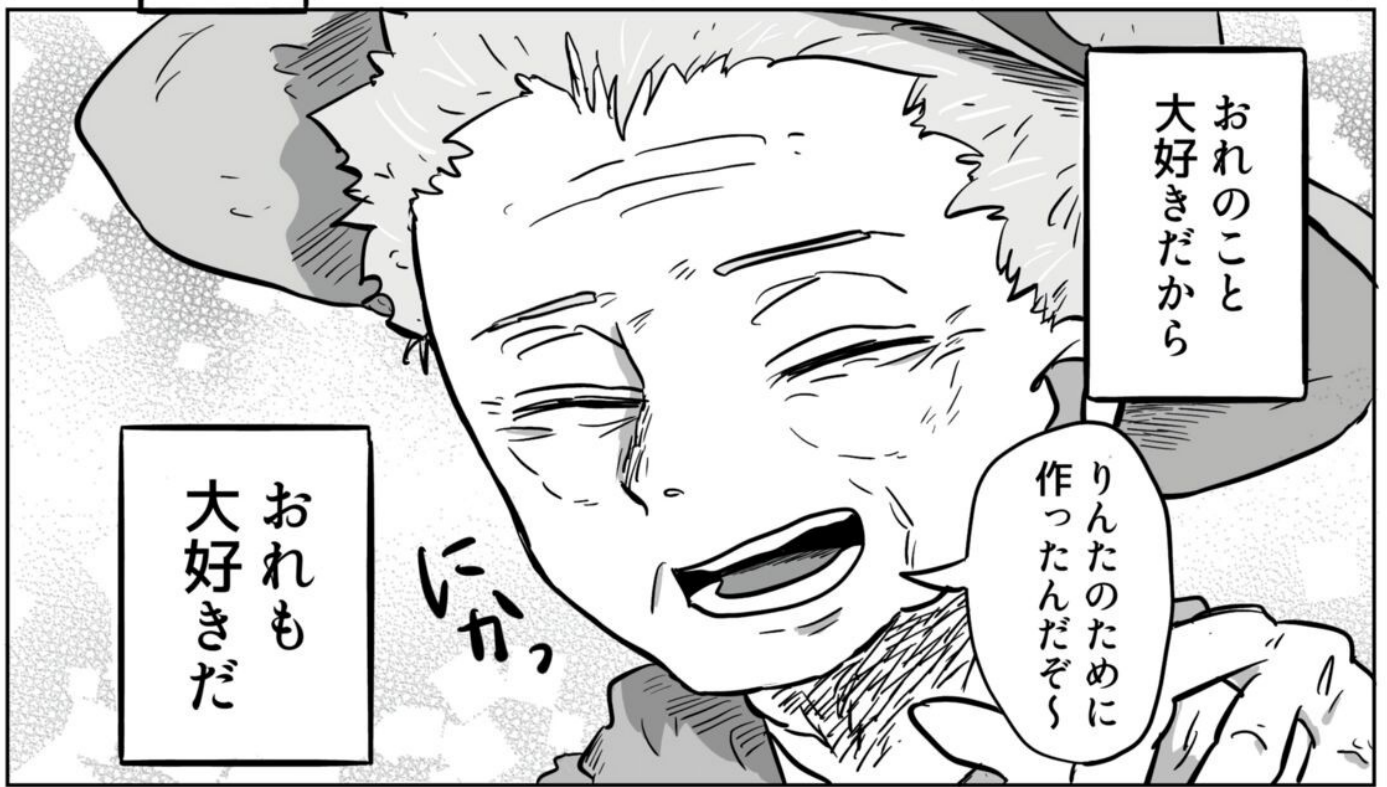
ここって爺ちゃんらが  
子どもの頃から  
あるらしいよ

うわーすげーレベルの  
廃墟じゃんかー！！

すげーレベルって  
なんだよッ









ちよっと  
倫太!

アンタこんな時間まで  
何してたの!



夕飯前に  
ピアノの練習  
しなさいよ!

ええー

ガッ



お義父さんは  
甘すぎます!

ハッ  
チャ

まあまあユキさん  
そんな言っちゃらんでも...

アンタ  
発表会前って  
分かってんの!?

りく達と  
ちよっとねー



お爺ちゃんに  
聴いてもらいなさい!

ちよっとその飲み方  
やめてって言うてるでしょ!

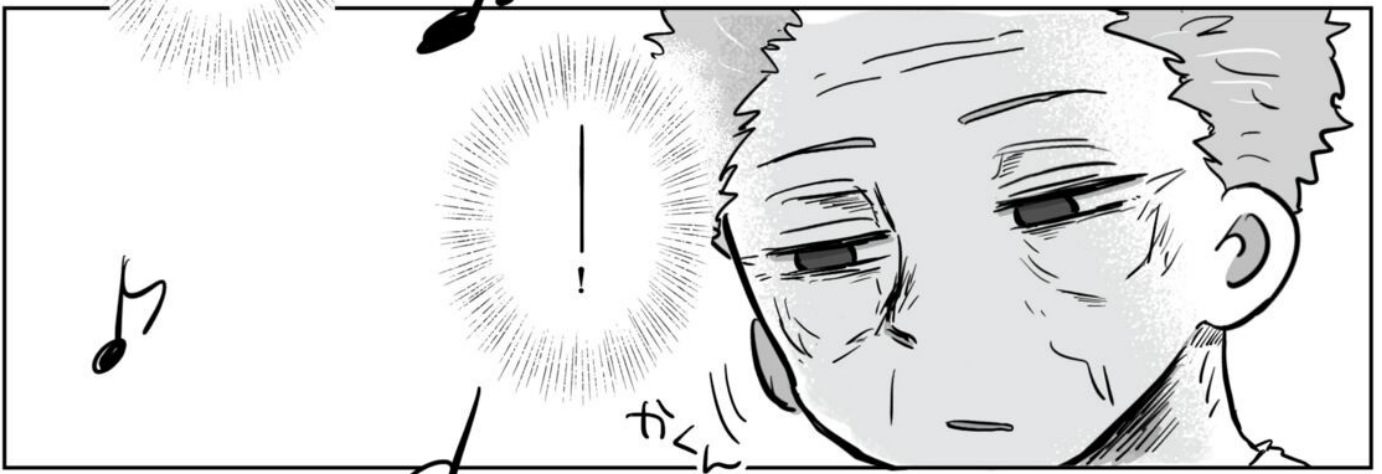
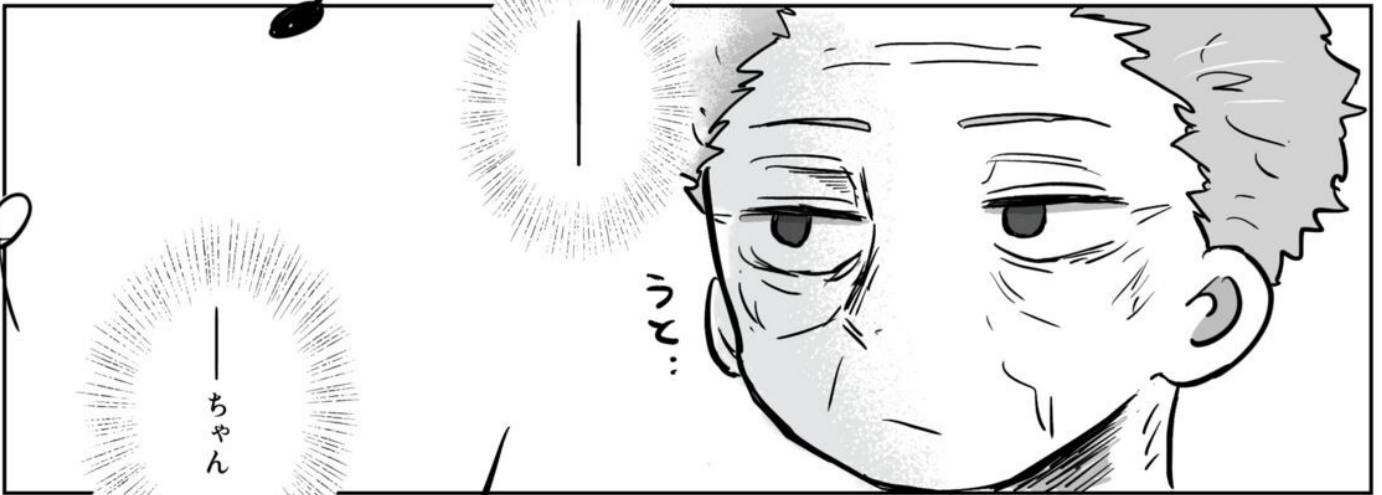
へあーい

へーへー

もー  
ちよっと  
ちよっと  
ちよっと









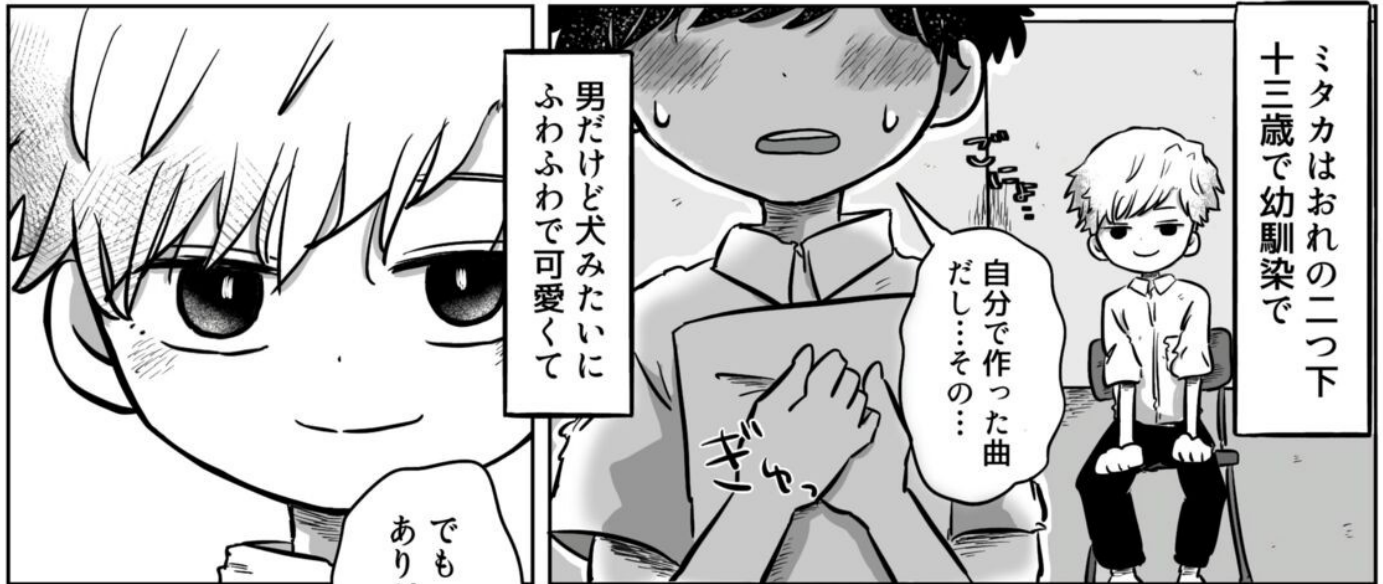




誰もいない  
音楽室で

こっちは  
恥ずかしいから...

ミタカのピアノを  
聴くのが  
日課だった



ミタカはおれの二つ下  
十三歳で幼馴染で

男だけど犬みたいに  
ふわふわで可愛くて

自分で作った曲  
だし...その...

でも  
ありがとう



おれの

この曲好きって  
言ってもらえて  
うれしい!

初恋だった





ミタカが  
いーんだよ

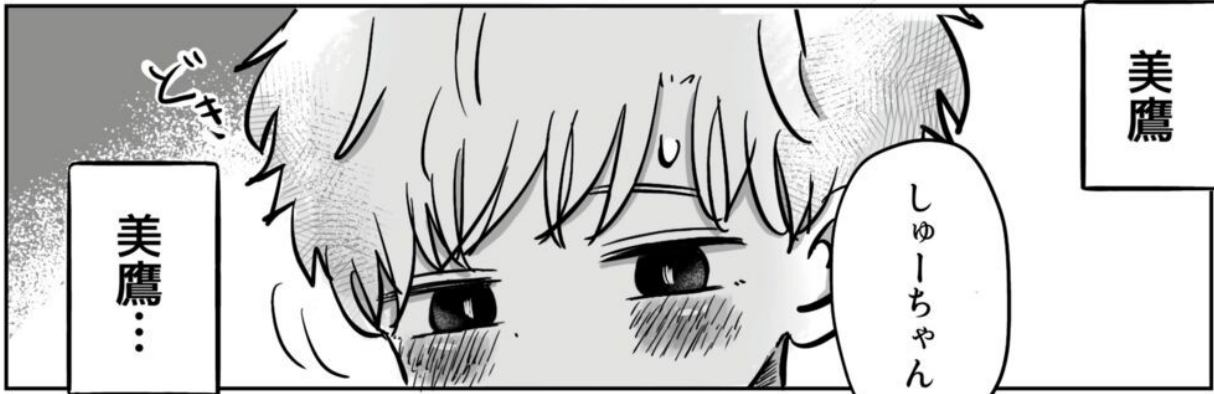
キッ  
ハッ  
リ



い...!  
行きたい!

でもしゅうちゃん  
友達多いのに...  
おれなんかと  
行っていいの?

ほ  
あ  
あ  
あ!!



ど  
き

美鷹

美鷹...

しゅーちゃん



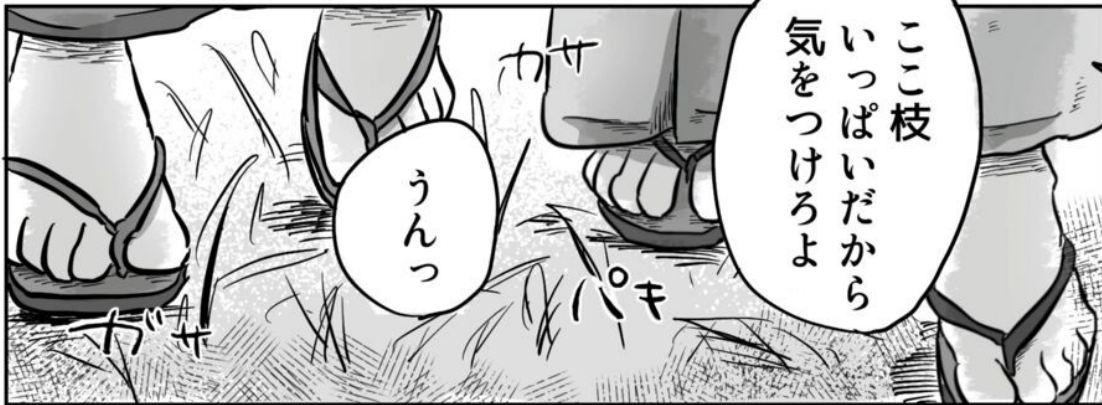
美鷹が  
大好きだった

あ

ありがとう...

美鷹と  
ずっと一緒に  
いたかった







誘ってくれて  
ありがとうね



あ、の

嬉しいから…



その

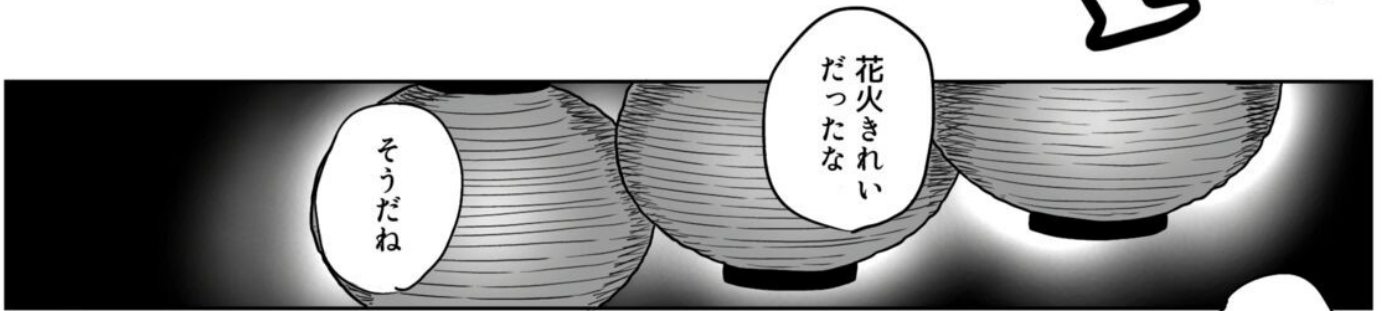
すごい



美鷹

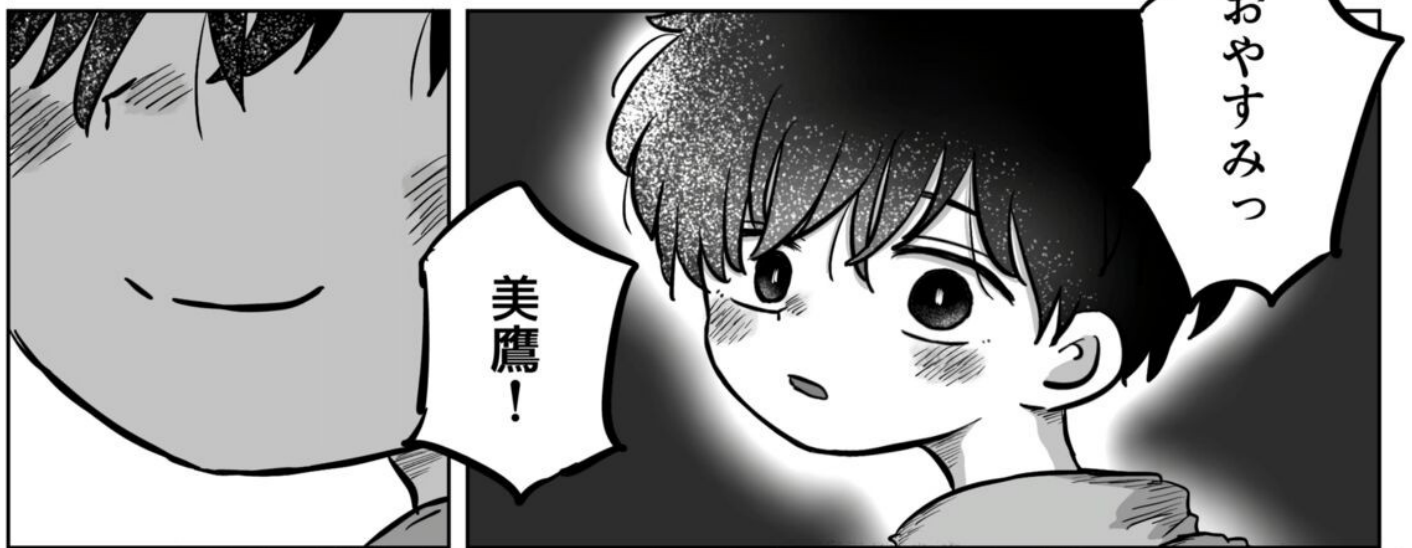
ト







また明日な！



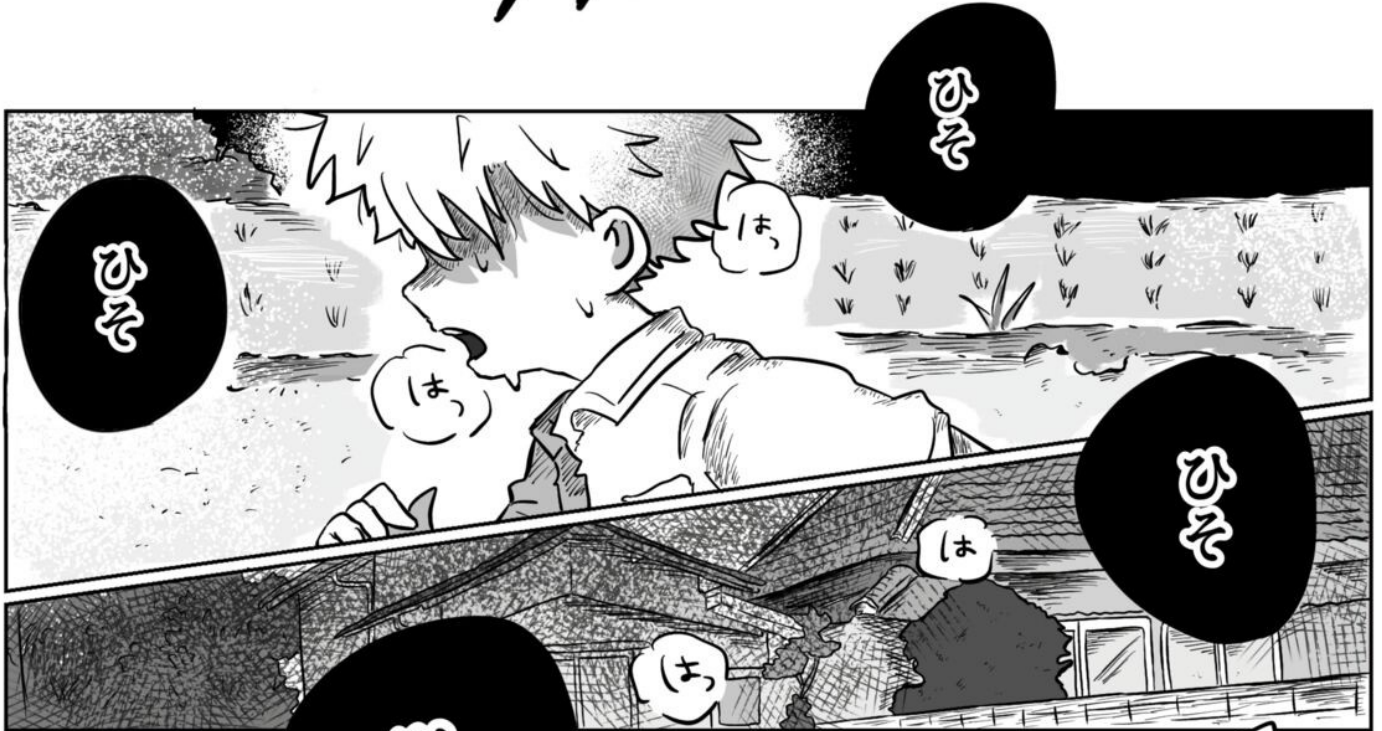
おやすみっ

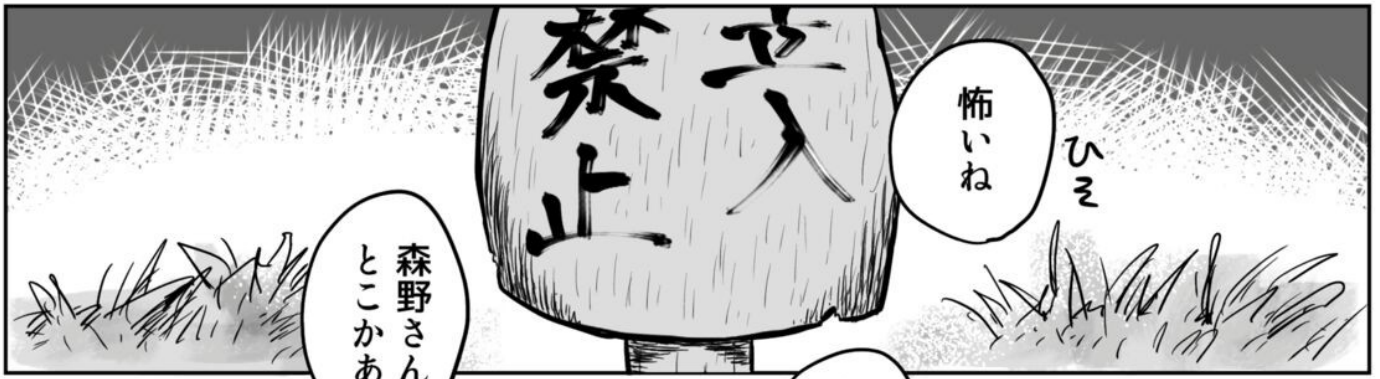
美鷹！

うん！









怖いね

ひそ

森野さん  
とこかあ

あれだったってさ

息子さんだったってさ

こないだ  
話しちゃった

あれか

あれが出た

森野さんちの  
野菜食べちゃったよ…

遂にご近所で

大丈夫なの？  
それ

あれ

うつつてたら  
どうしよう

気持ち悪い

あれ  
怖いね



消毒で  
真っ白だ



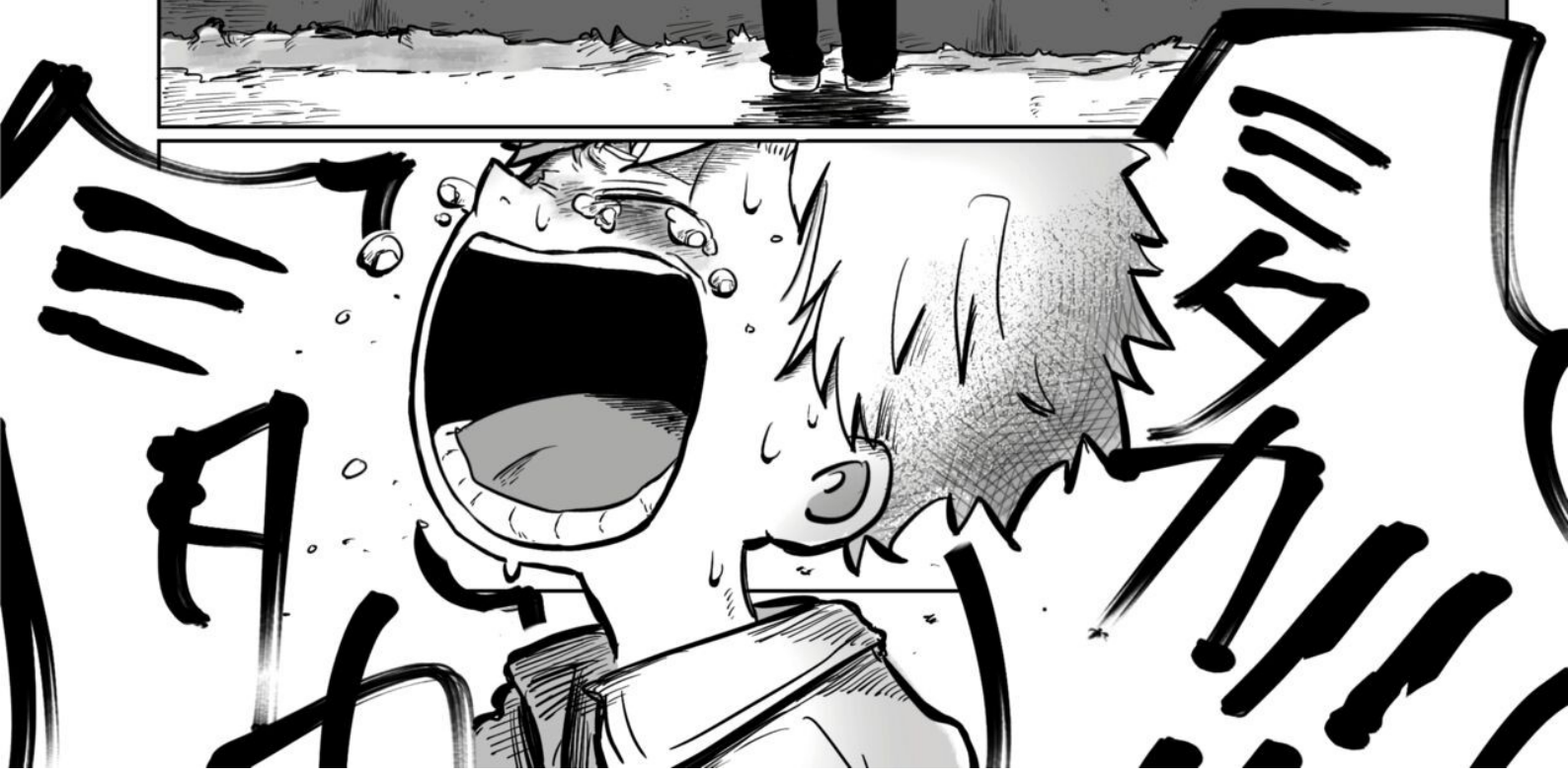


せー

せー

おれたちには  
関係のないことだ

そう思っていた





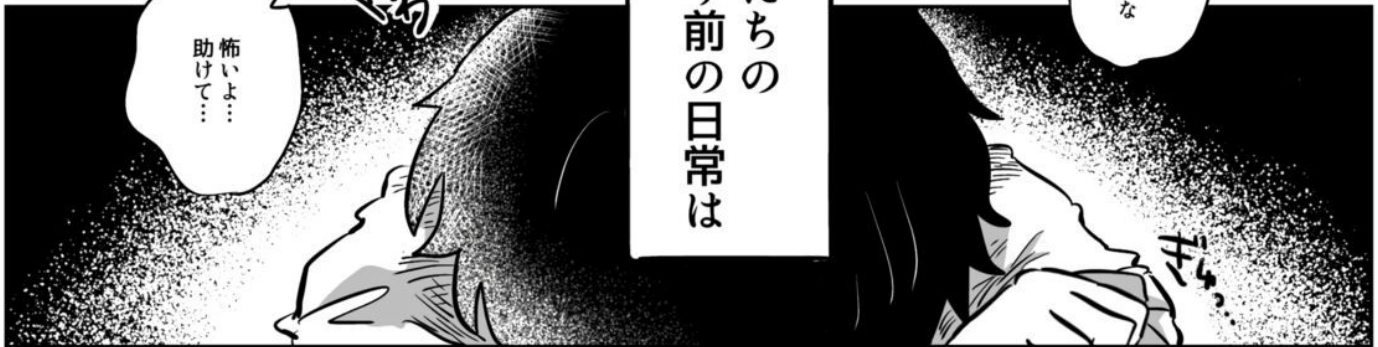
これから  
どうなんだ

お母さんお母さん  
お母さんお母さん…

ざわ  
ざわ

オレ達もう  
戻れないのかな

おれたちの  
当たり前前の日常は



怖いよ…  
助けて…

ざわ

終わりを  
迎えたのだった

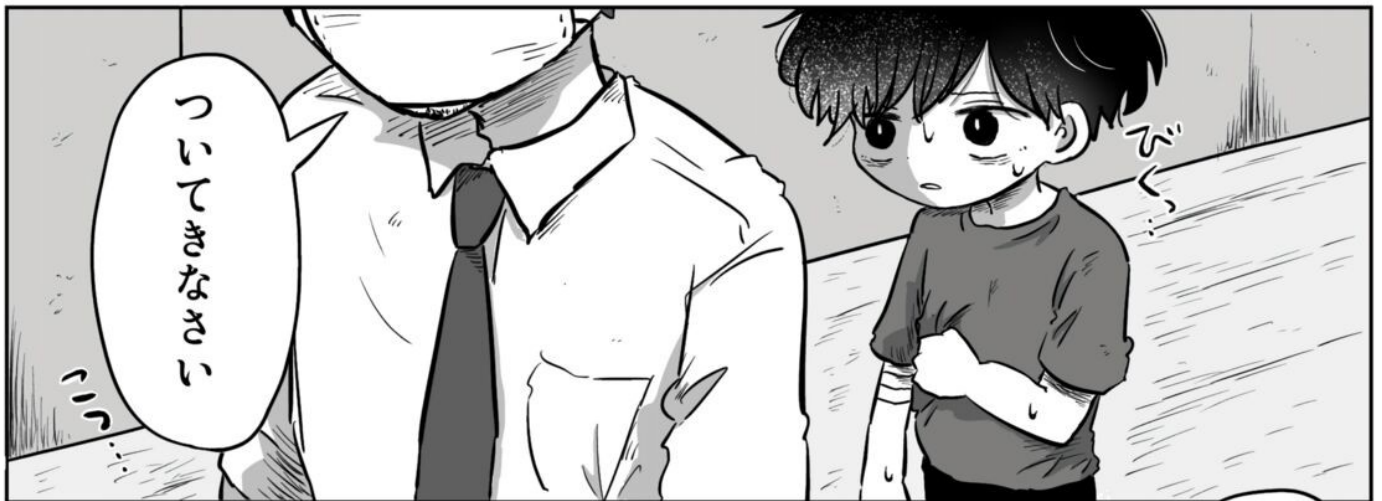
しゅうぢやを

こうも  
あっさりと

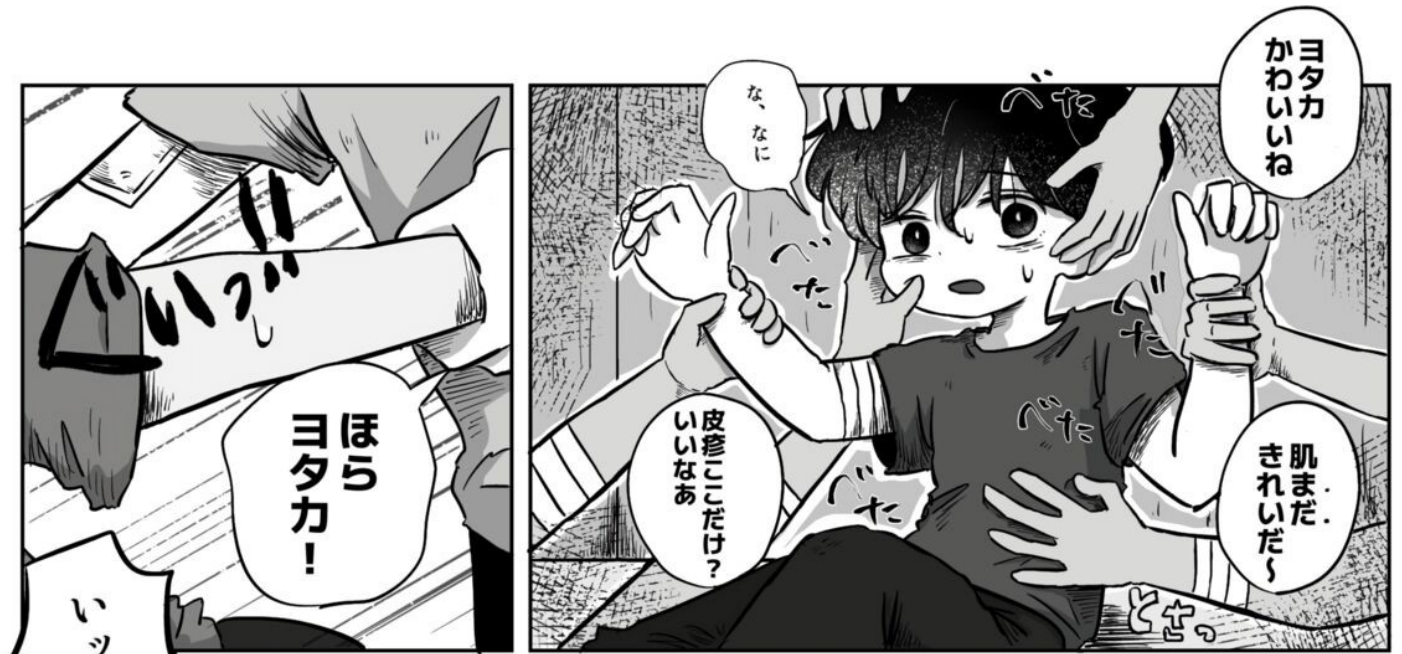














大丈夫！

みんな  
やっつてるよー！



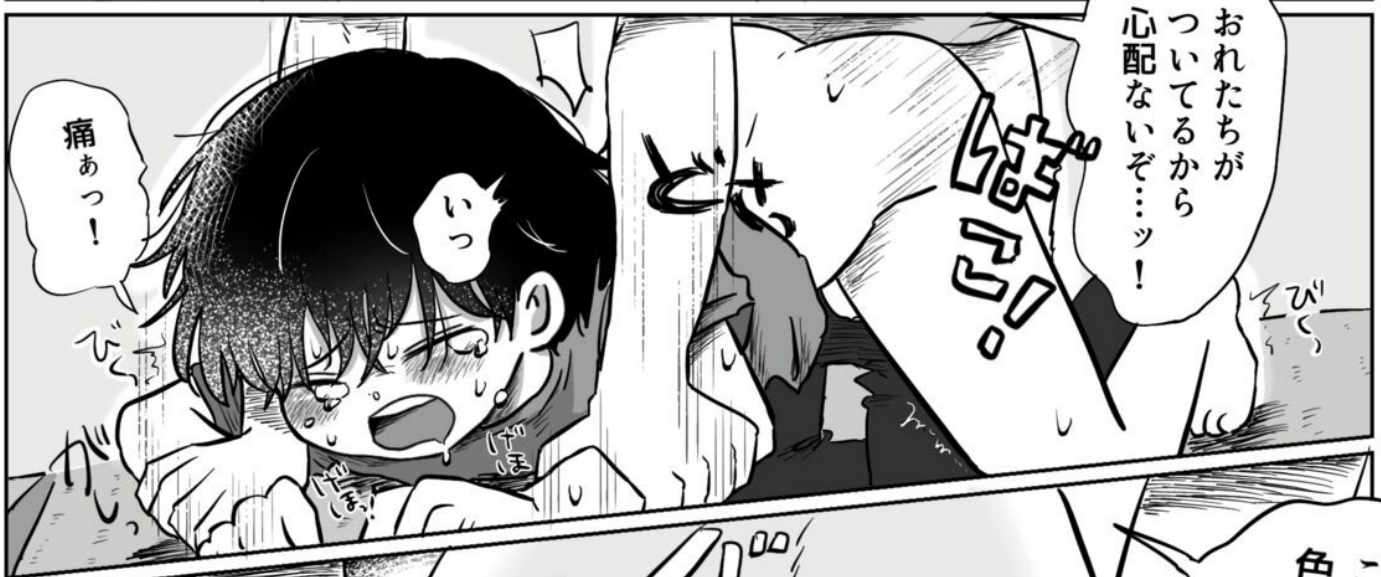
しっかり  
喉の奥使うんだよ

ほら  
おめッおめッ！



わあこっちも  
まだ肌きれいなあ…

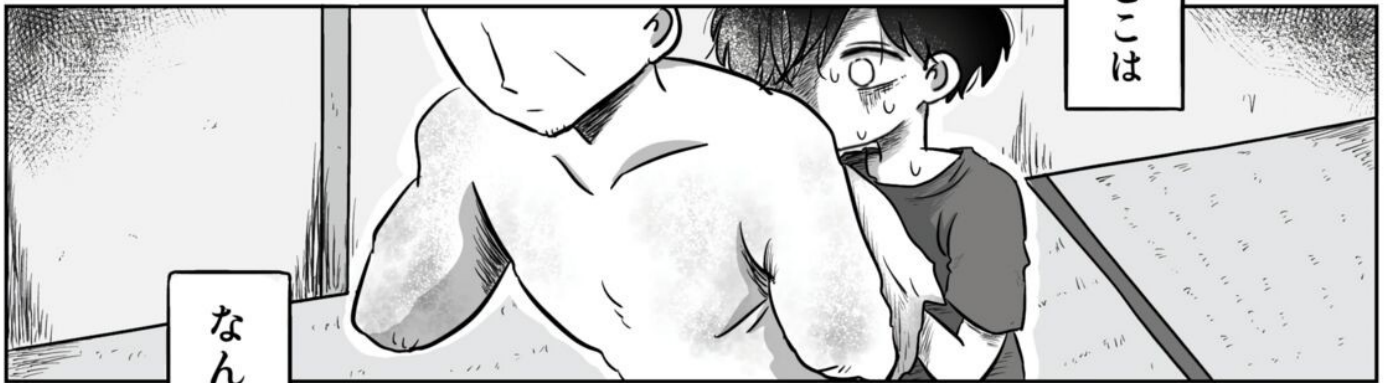








なんだここは



なんだここは

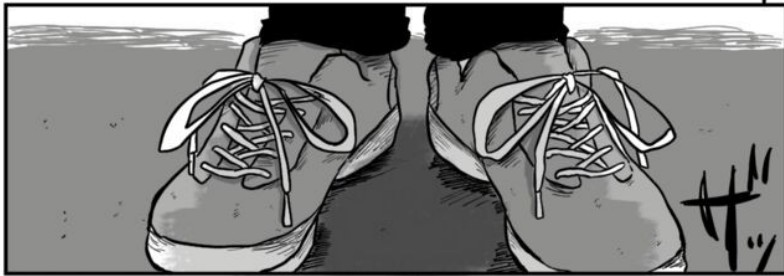
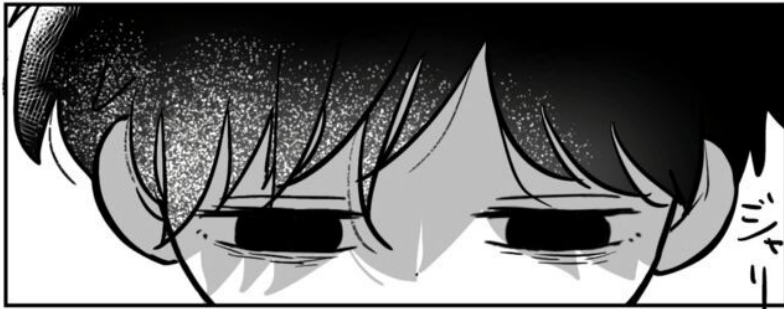


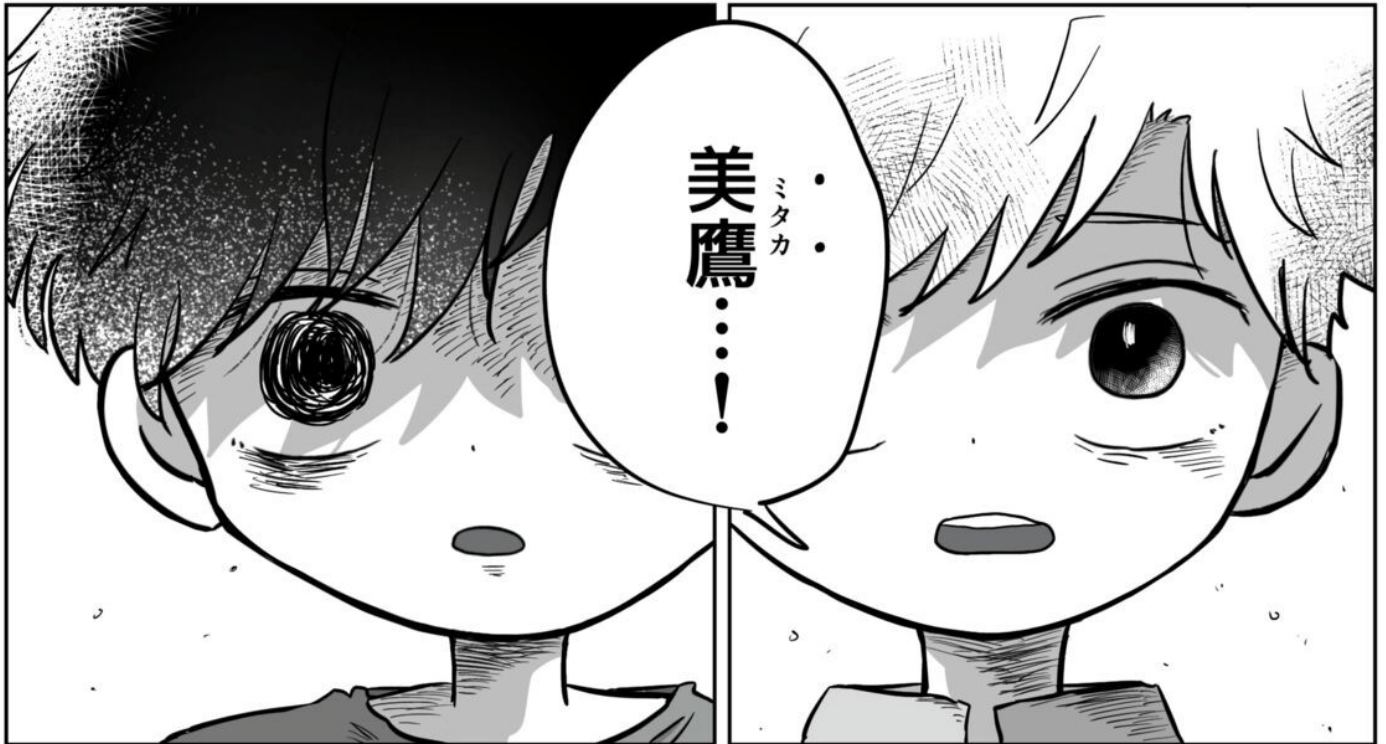
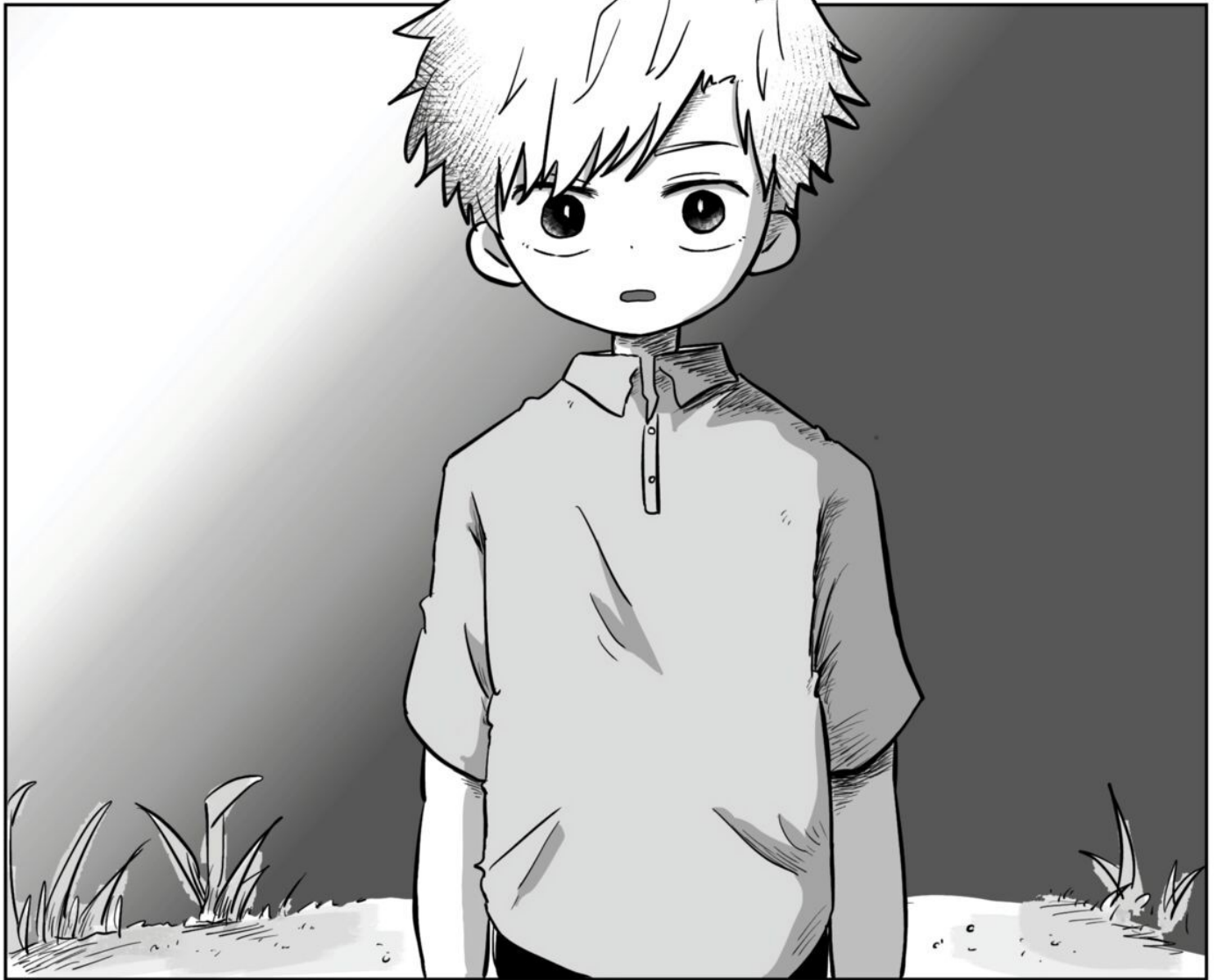
あー気持ちいい!

あ ヨタカお前 最高...!

ズボッ

ズボッ







しゅうちゃんは

とても温かかった

しゅうちゃんは



消毒液の臭いが  
しなかった

ごめん遅くなって  
親がなかなか  
行かせてくれなくて

気が付けば

しゅうちゃん

おれがここに来てから

一ヶ月の時間が  
流れていた

しゅうちゃん!

しゅうちゃん!

しゅうちゃん!

しゅうちゃん!

しゅうちゃん!





静かだな



しゅうちゃん  
おれ…



もう一生ここで  
暮らしていかなきゃ  
いけないのかな

もう家に  
帰れないのかな





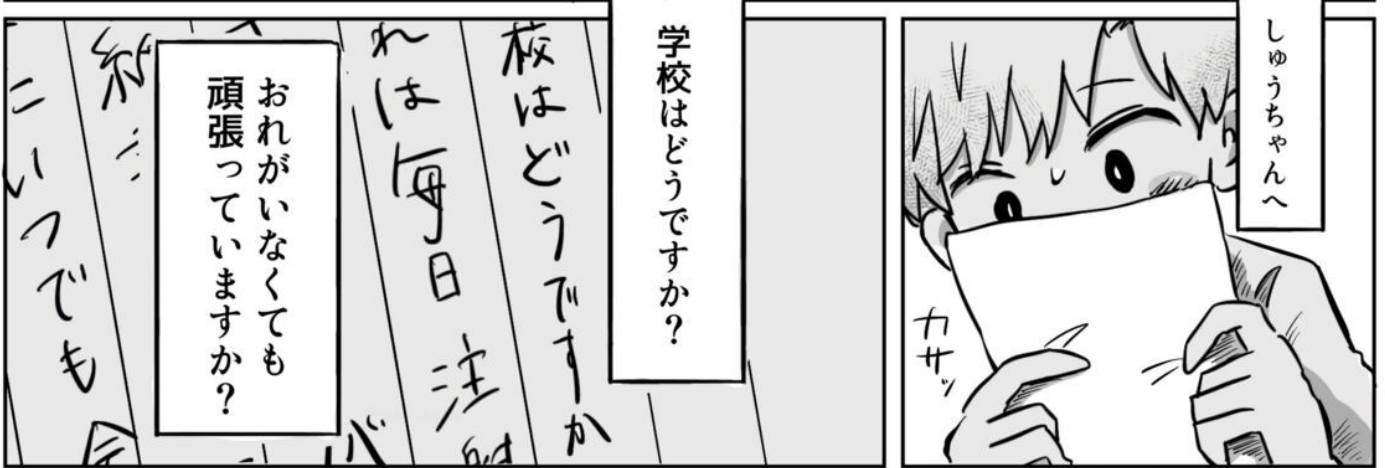








ミタカからだっ！



しゅうちゃんへ

カサッ

学校はどうですか？

板はどうですか？

毎日注射

おれがいなくても  
頑張っていますか？

おれがいなくても  
頑張っていますか？

毎日弾いてないと  
すぐ弾けなくなるからです



おれは毎日  
注射打ってもらったり  
薬を塗ってもらったり  
しています

注射嫌いだったけど  
もう慣れました

早くピアノが  
弾きたいです

毎日弾いてないと  
すぐ弾けなくなるからです

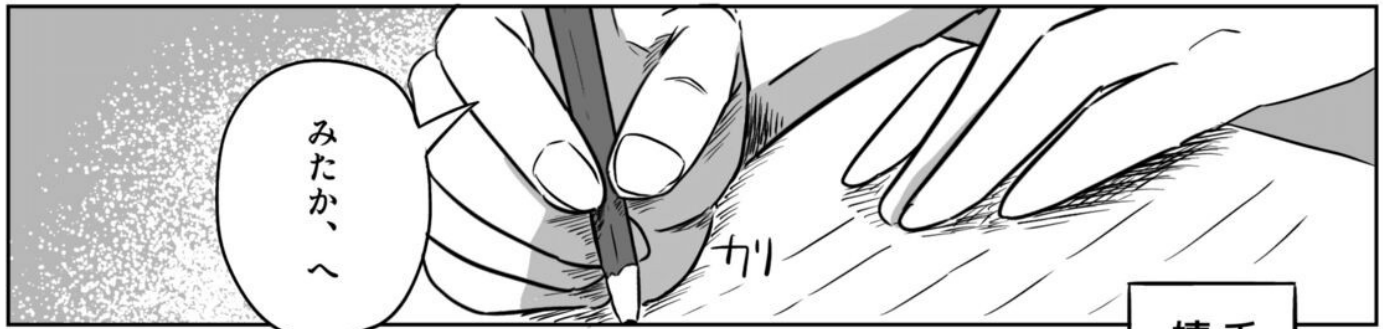


またいつでも  
会いに来てください

待っています

森野美鷹

母ちゃんツ  
便箋どこー!?



みたか、へ

カリ



手紙ありがとうございます  
嬉しいです

今日学校でヨウジとタケシが  
ケンカして大変でした

タケシの転びっぷりが  
面白かったので  
ミタカにも見せて  
あげたかったな

美鷹は今日  
何をして  
過ごしましたか？

ご飯はちやんと  
食べていますか？

嫌いなピーマンも  
しっかりと食べるんだぞ

早く元気に  
なってください





美鷹に会える日が  
待ち遠しいです



大好きです

美鷹





やった！

明日また  
ミタカのとこ  
行ける！

何話そっ？  
ミタカ元気かな！



おい周作

？



お前あの島行ったらしいな  
なに考えてんだ？

頭おかしいんじゃないの？

どーせミタカも  
溶けて腐ってくのに

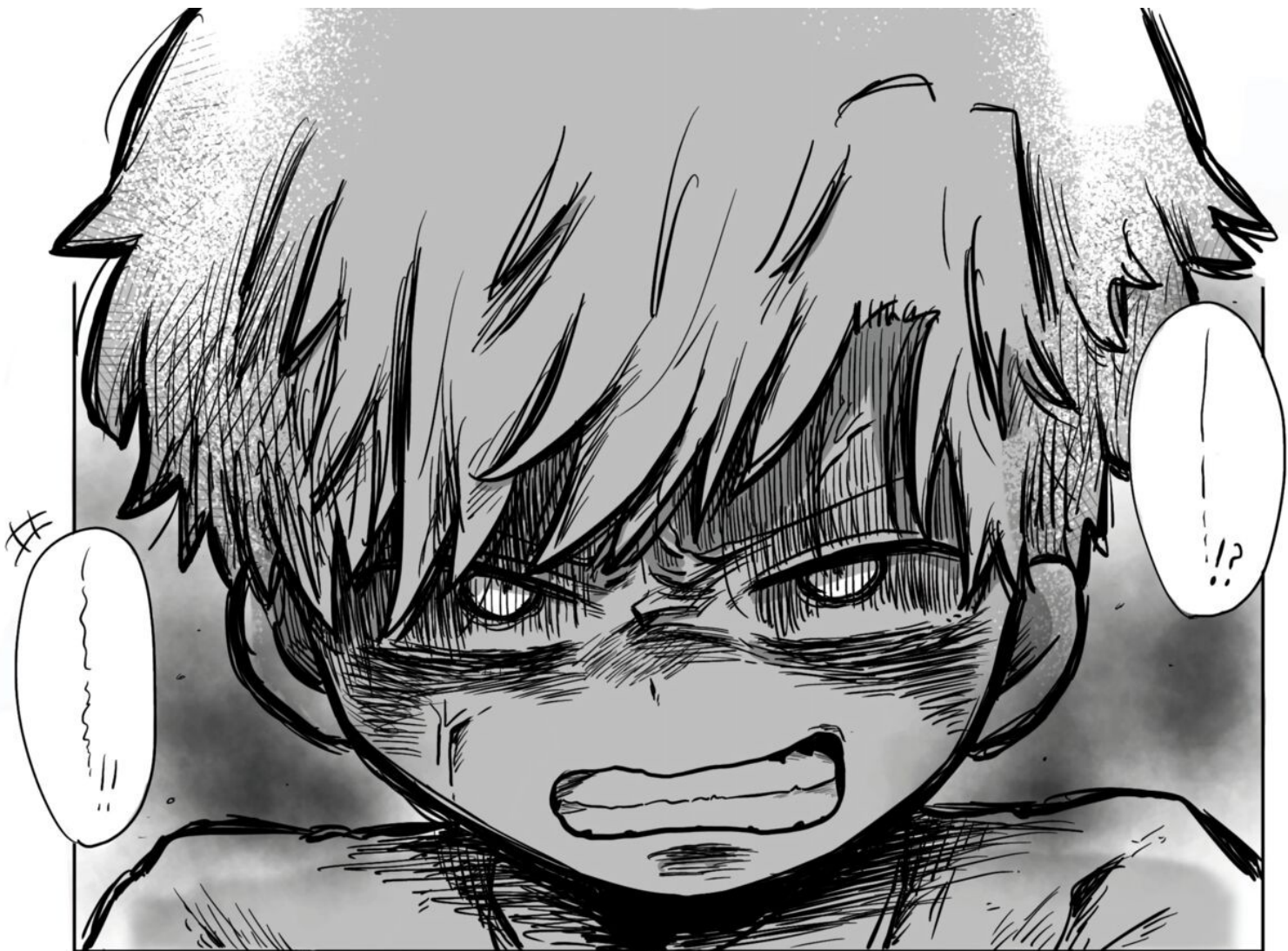
うわー  
気持ち悪ッ

いやそんなこと

もう手とか足とか  
無いんだろ？

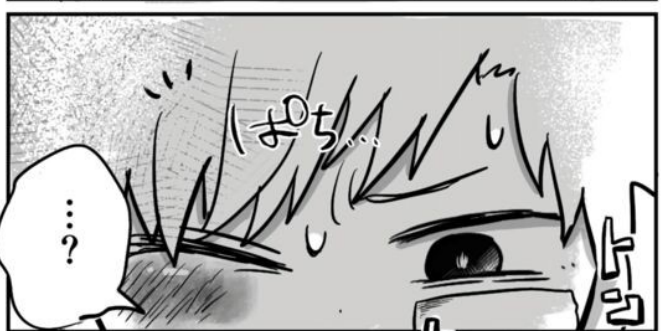
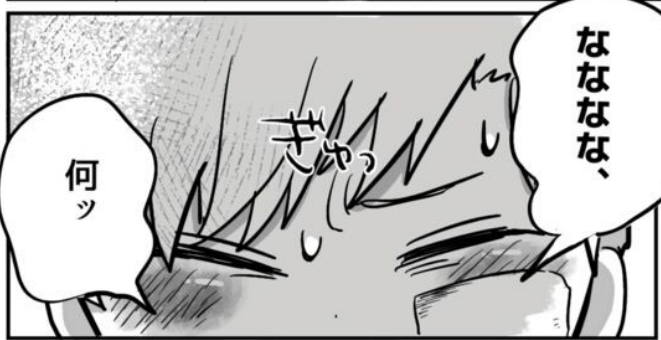
はよ死ねば  
良いのに！

いや、だから



しゅーちゃん…









その音は  
波の音より  
心地の良い

おれの大好きな  
美鷹の曲

美鷹の  
音だった



こんなことしか  
出来なくて…



ごめんね  
しゅうちゃん



ごめんね…  
しゅうちゃん

その手はとても  
冷たかった

一人にして  
ごめんね

寂しいよね  
ごめん

ごめん

ごめん  
しゅうちゃん

涙の止め方が  
分からなかった

美鷹はただただ  
謝り続けた

波の音が  
耳障りな夕暮れ時だった

すっ…

ぽろ  
ぽろ

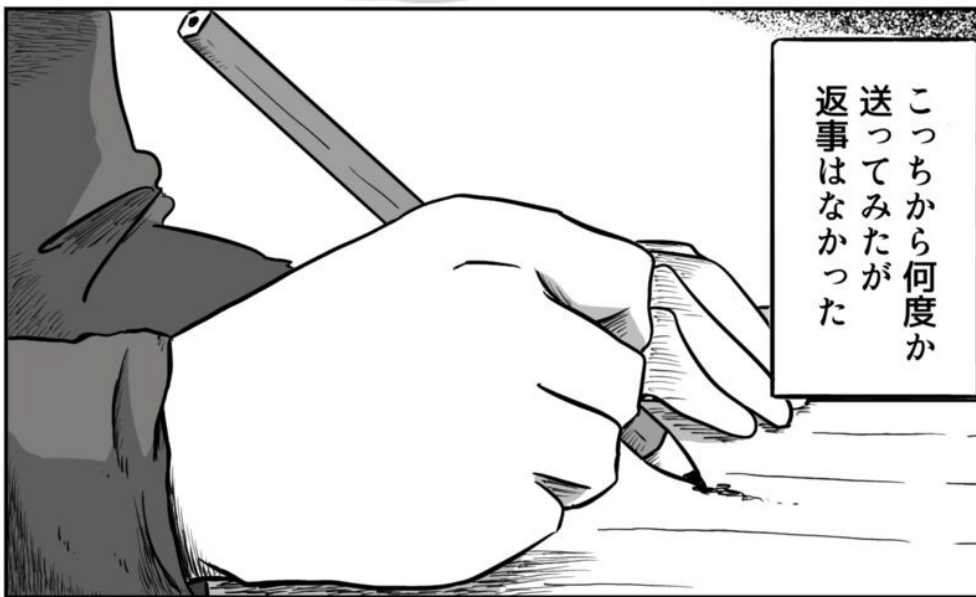


美鷹から  
手紙が来なくなって

そろそろ  
三か月になる



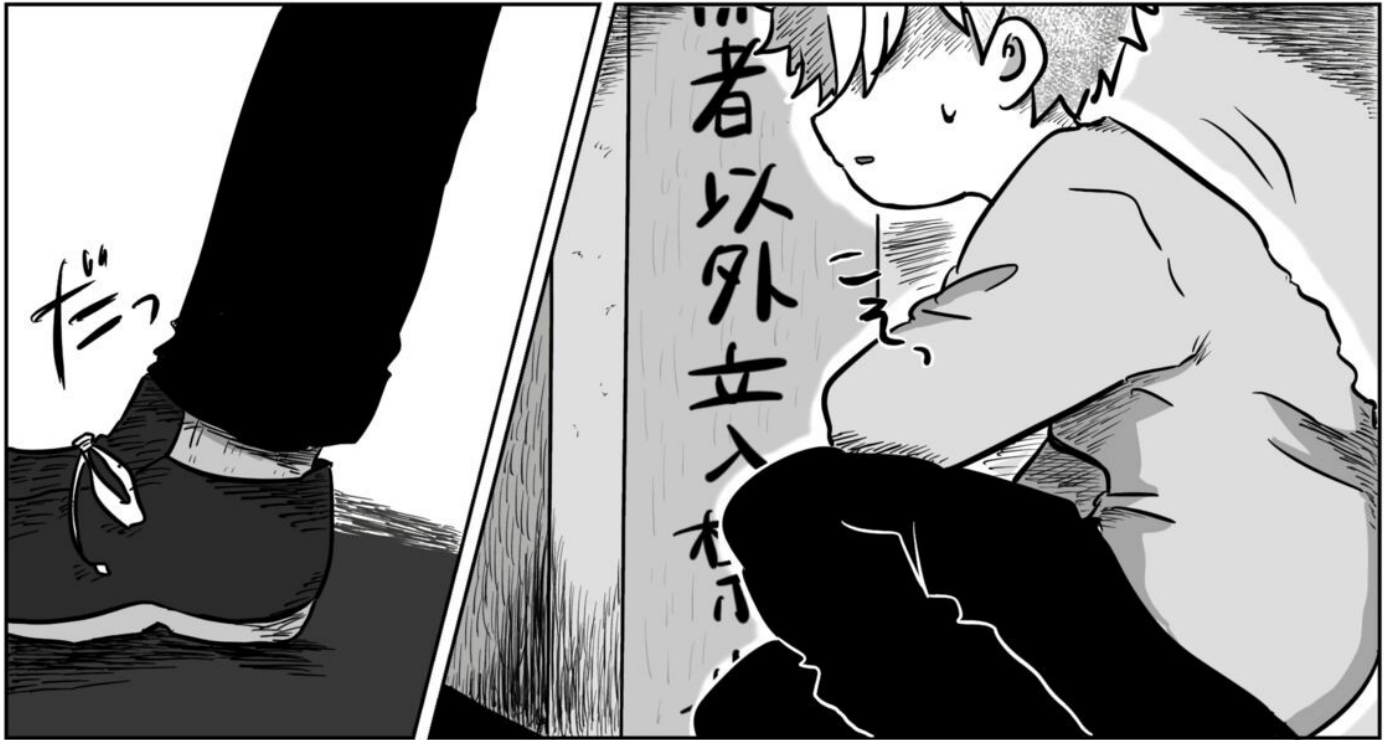
月日は  
流れゆく

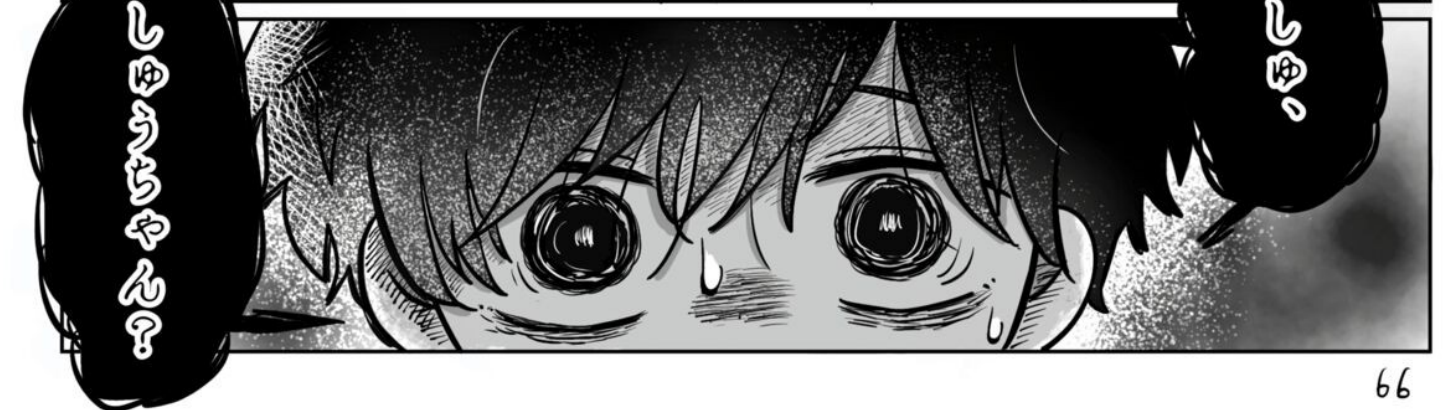
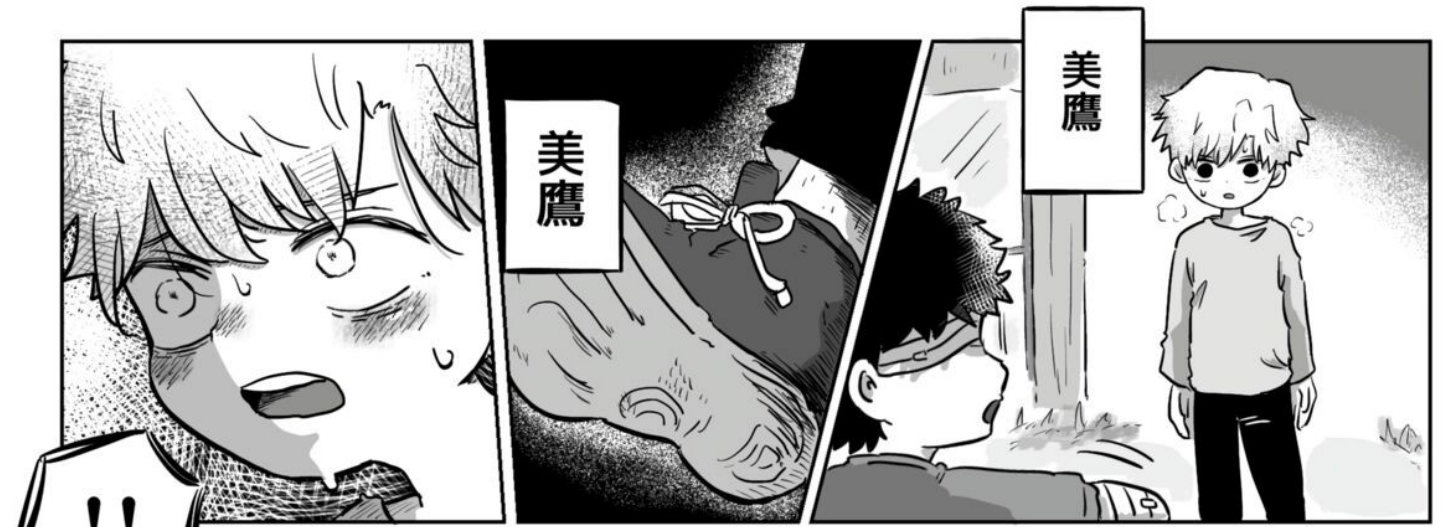


こっちから何度か  
送ってみたが  
返事はなかった



島にも行ったが  
面会拒否で会わせて  
もらえなかった









でも鉛筆  
上手に持てなくなって

このままじゃ  
腐り落ちるから  
先に切つとこうって  
お医者様が…

こんな手！

見られたくなかった！！

こんな  
気持ち悪い手！！

しゅうちゃんに  
知られたく  
なかつた！！！！



ずっと

ずっと  
考えないように  
していた

は、

は、

は、

は、

美鷹やこの島に  
いる人達の病が  
どれだけ辛く  
悲しいものなのか

美鷹がどんな思いで  
ここにしているのか



どんな思いで海の向こうに  
微かに見える故郷を  
眺めていたのか

どんな思いで  
おれと会っていたのか

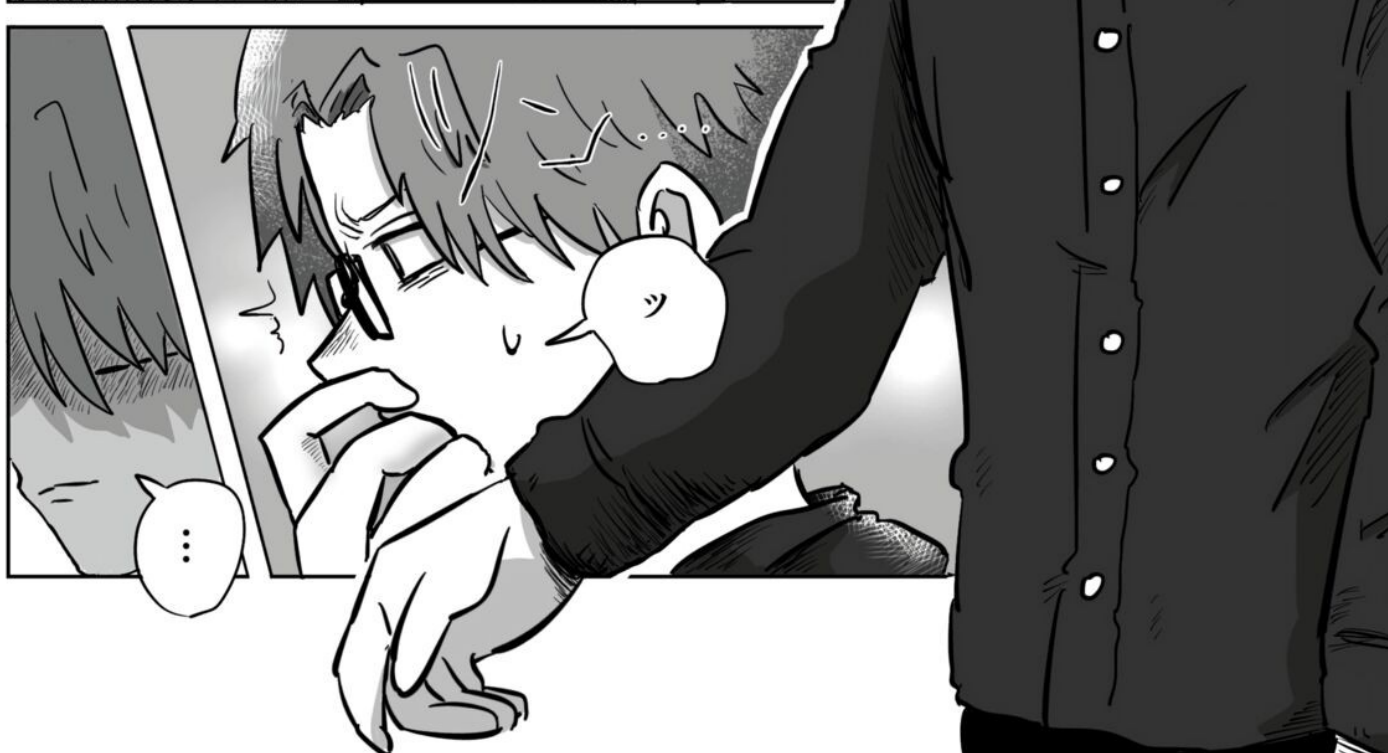
助けて…

もう嫌だ

助けて  
しゅうちゃん

怖くてずっと  
考えないように  
していた









包帯も  
変えなきゃ…  
傷治んないよ

別にいい

だめだよ  
そんなこと  
言ったら

い



こんな手じゃ  
何も出来ないから  
もういい

このまま  
全部溶けて腐って

はやく死にたい



ヨタカ君…



風呂行こ!  
風呂!

おっせ

なにッ!

わ!

ええ!?

包帯取って  
キレイにしなきゃ!

オレが  
洗ってあげるよ

はあ!?!





それが  
辛くても  
苦しくても

オレ達ならきつと  
乗り越えられる



……って  
思うんだよね!

手いっぱい  
洗ったこうね

……



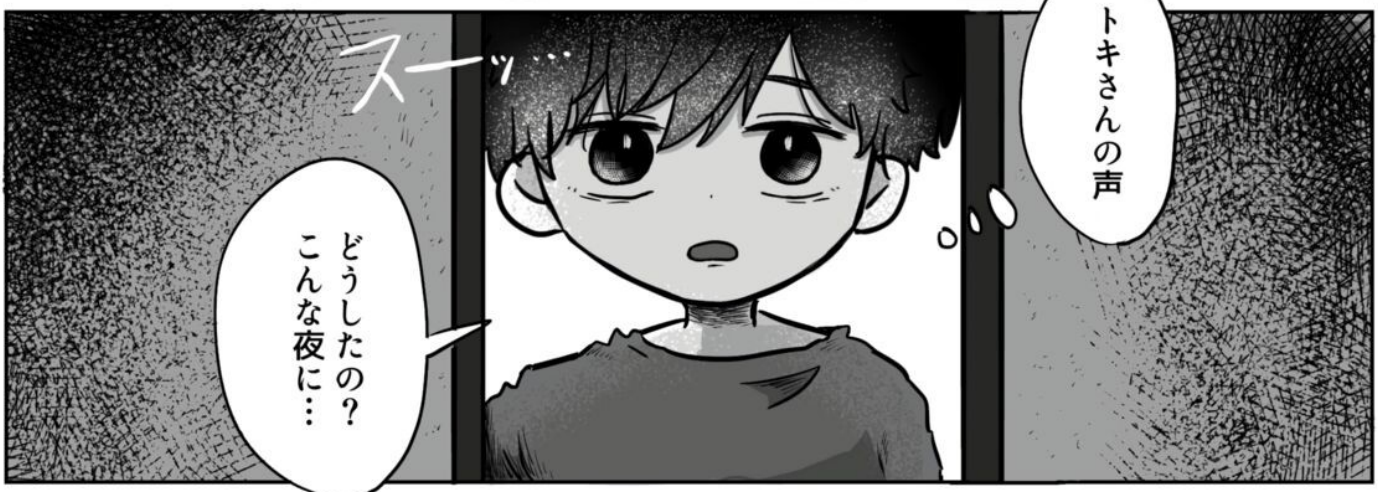
わかんないよ……

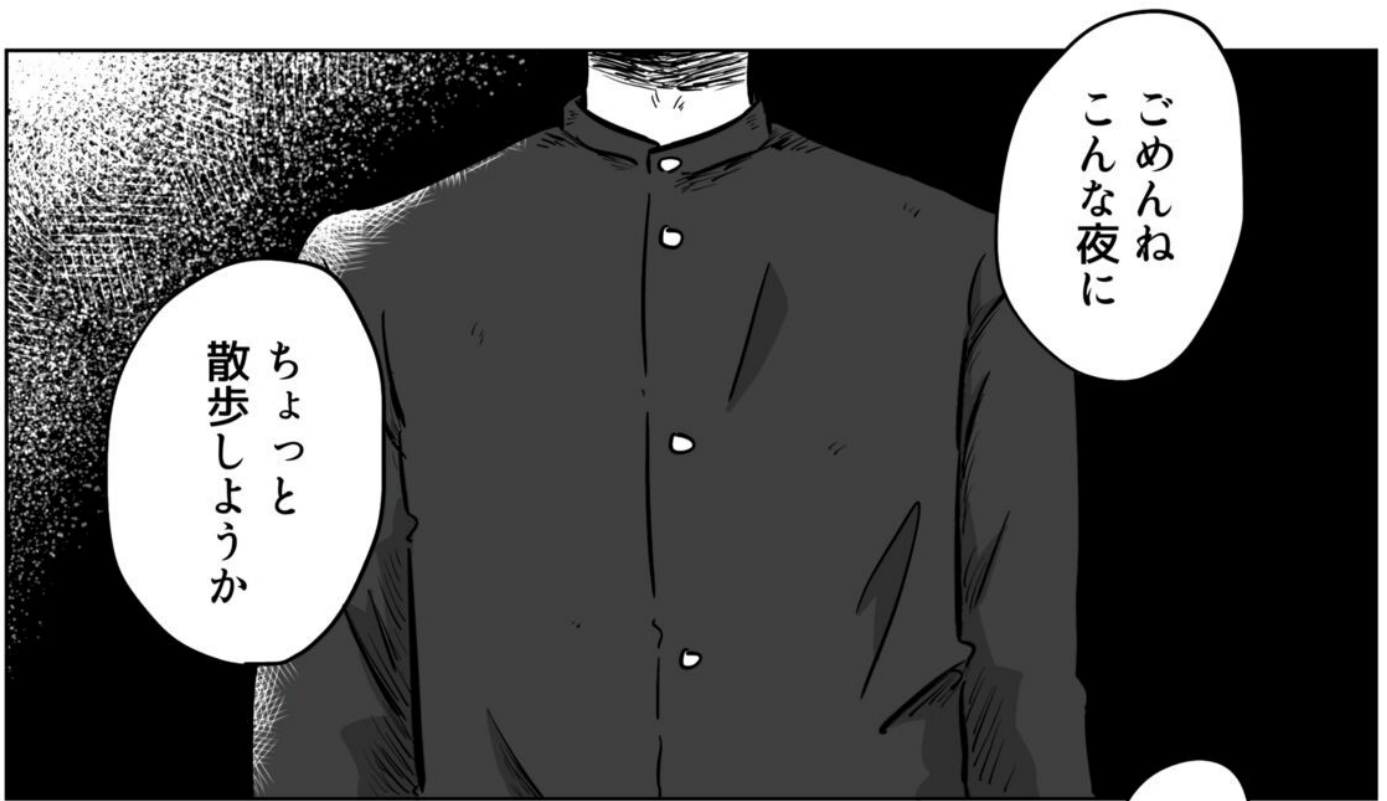
トキさんは  
とても大人な人で  
優しくて温かくて

まるでお風呂みたいなの、  
そんな人だった









ごめんね  
こんな夜に

ちよつと  
散歩しようか



ごめんね

ごめんね

...



面会どうだったの？

今日だったよね







ヨタカ君

オレ達何か悪いこと  
したのかなあ

何でオレ達  
なんだろうね



ぽた

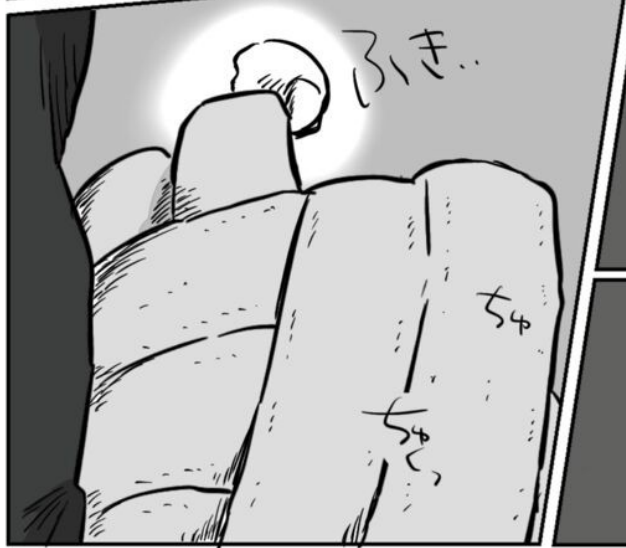
何でオレ達  
なんだろうね



何でオレ達って  
こんなにさあ

惨めなんだろうね

ぽろ









何でおれたち  
なんだろう

(あ)  
たまさ



前世で何か  
ひどいこと  
しちゃったのかな？



もしかして  
すっごい  
極悪人だったとか

それでおれ達きつと  
前世の罪を償ってるんだ

だからこんなに  
苦しいんだ

ごめんね  
ヨタカ君…

ねえ  
しゅうちゃん



こんな醜いおれでも  
好きでいてくれますか？

ずっとずっと忘れないで  
いてくれますか？

いいよ

もういいよ

もういいんだよ  
滝さん…



おひびき!!  
誰か来てくれ!!



病から、差別から  
解放された滝さんが

自由になれた  
滝さんが

その時のおれには心底  
羨ましく思えたんだ

ポッ

ポッ

いーなま...



自然に恵まれ

村では見られない  
渡り鳥だって  
元気に鳴いている

この島は  
とても美しい



だから

美鷹



美鷹…

だから  
この島は

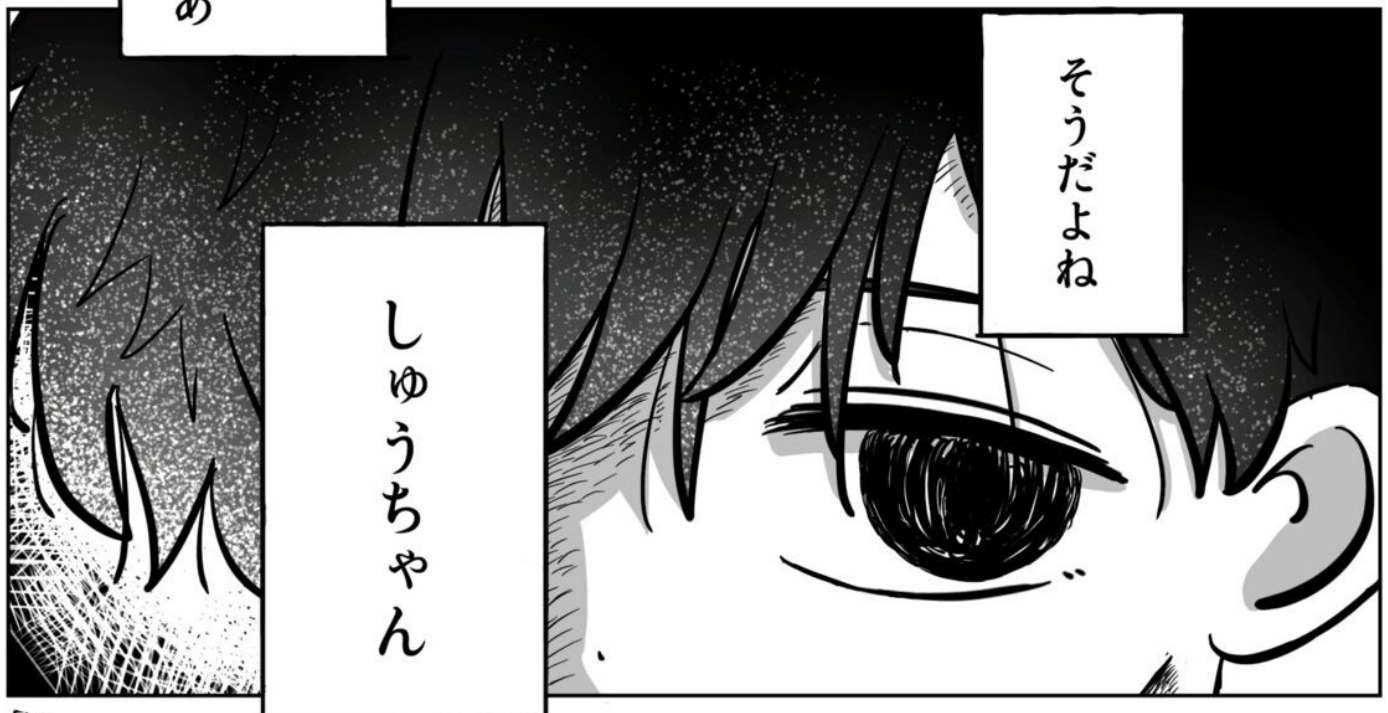


ひ、久しぶり

来るの  
遅くなってその、  
ごめんな…

おれたちは

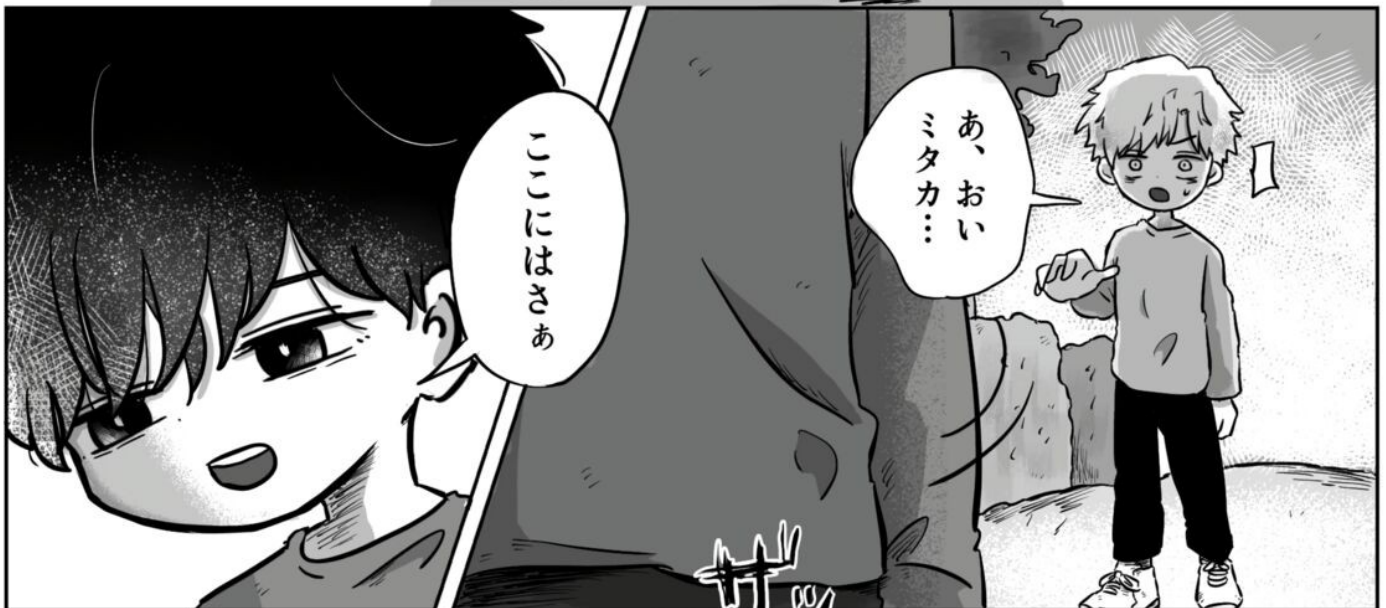
もっとみんなに  
愛されても  
良いんじゃないかなあ

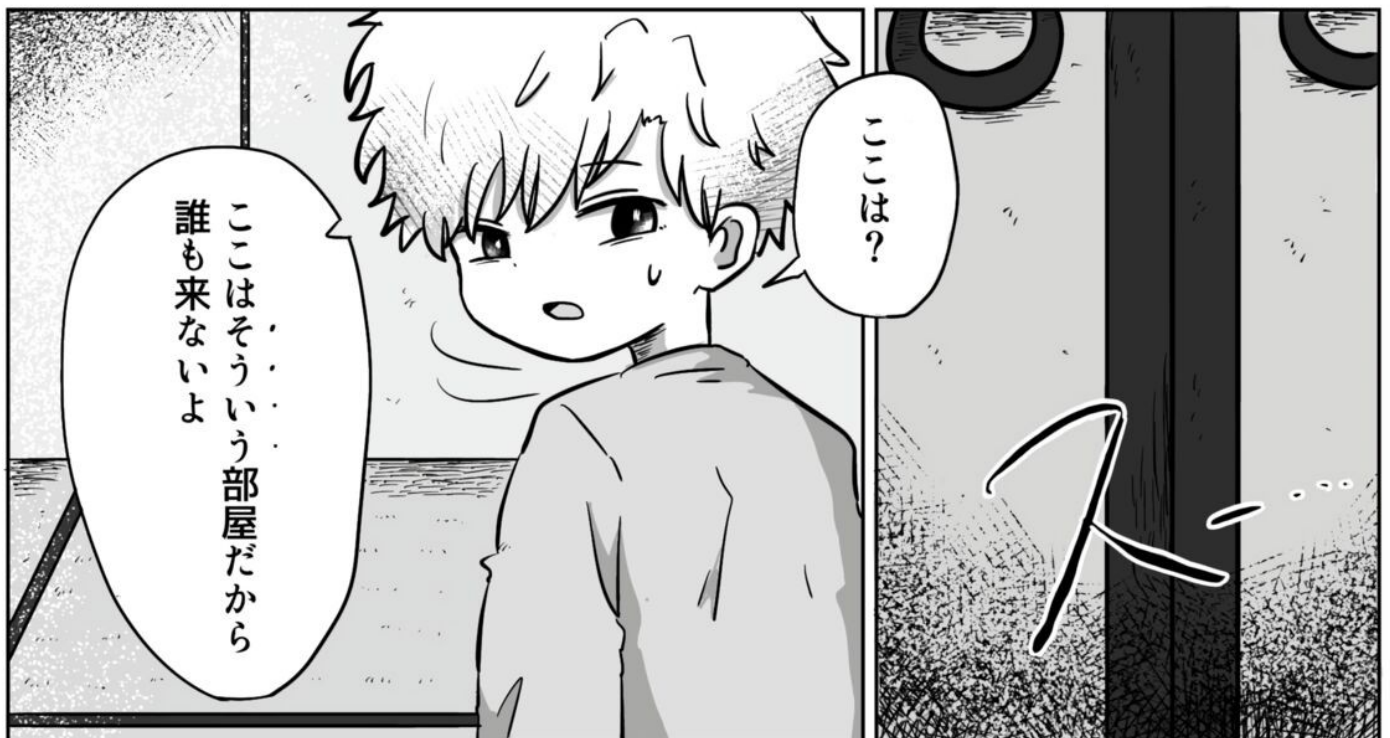


そうだよ

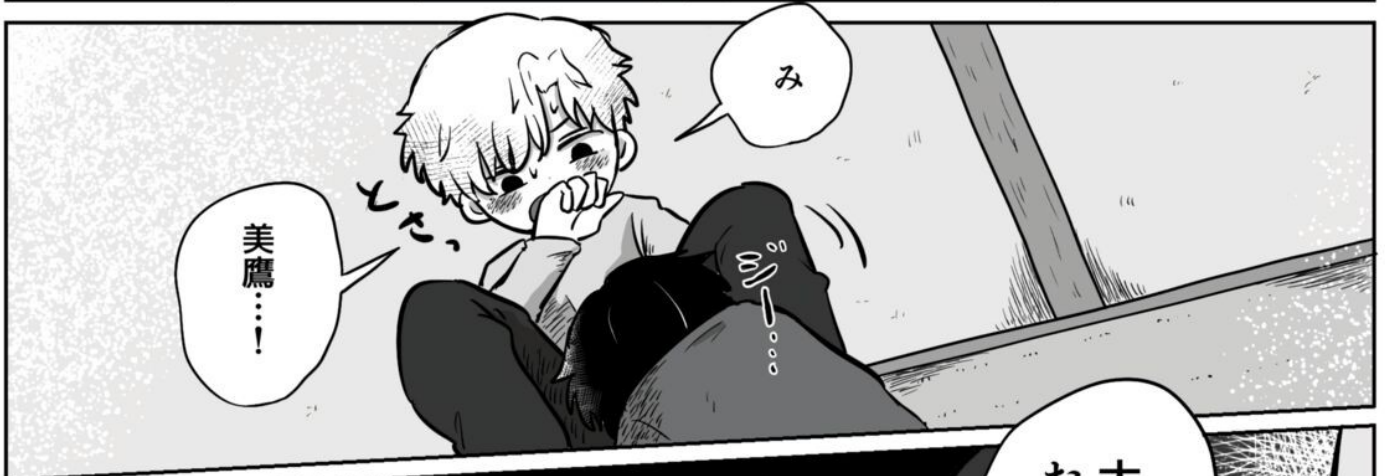
しゅうちゃん

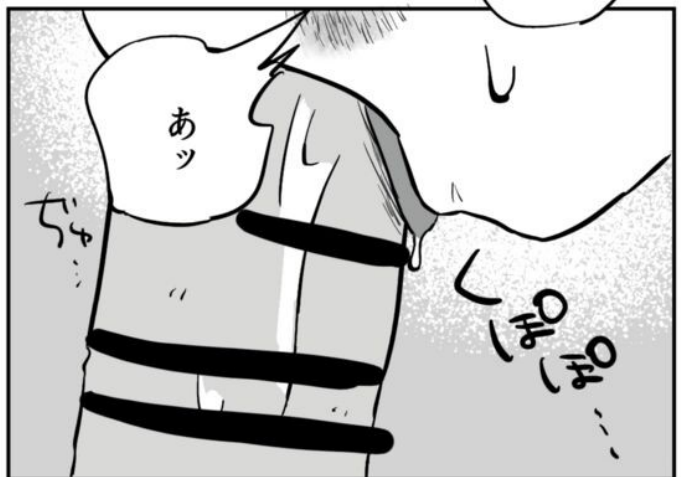
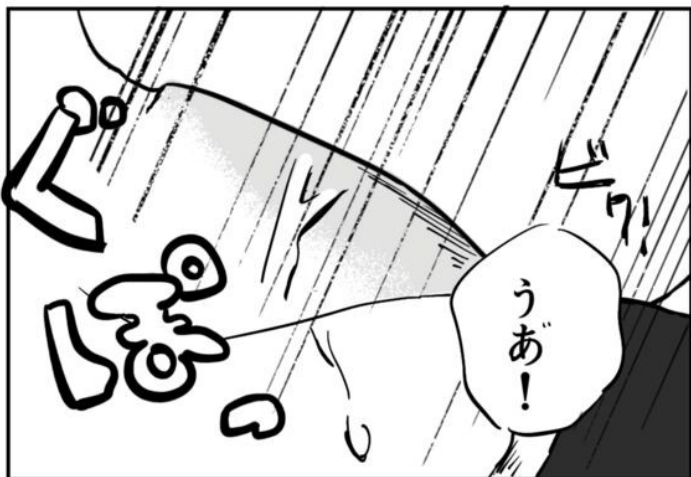






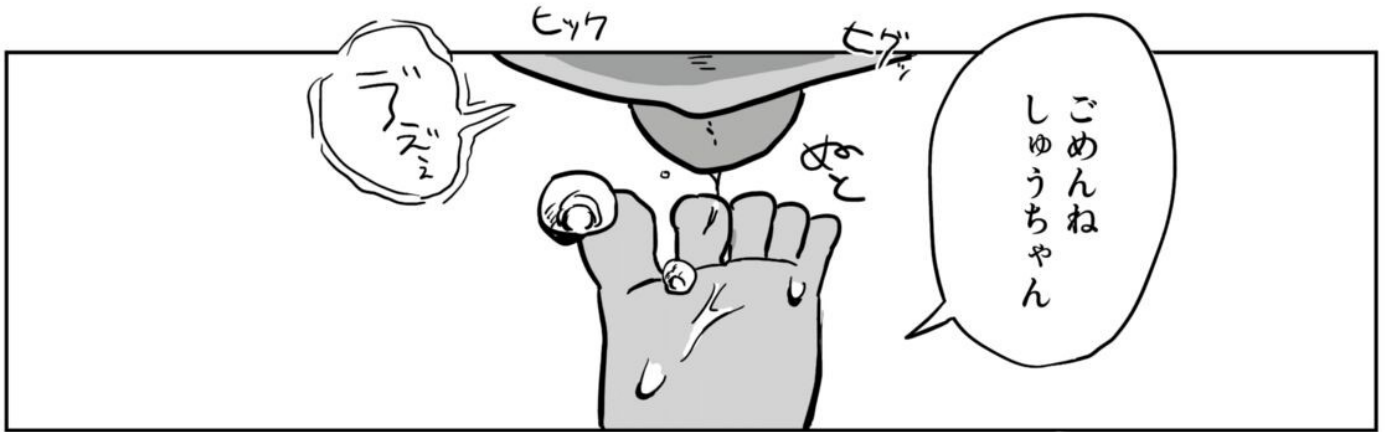


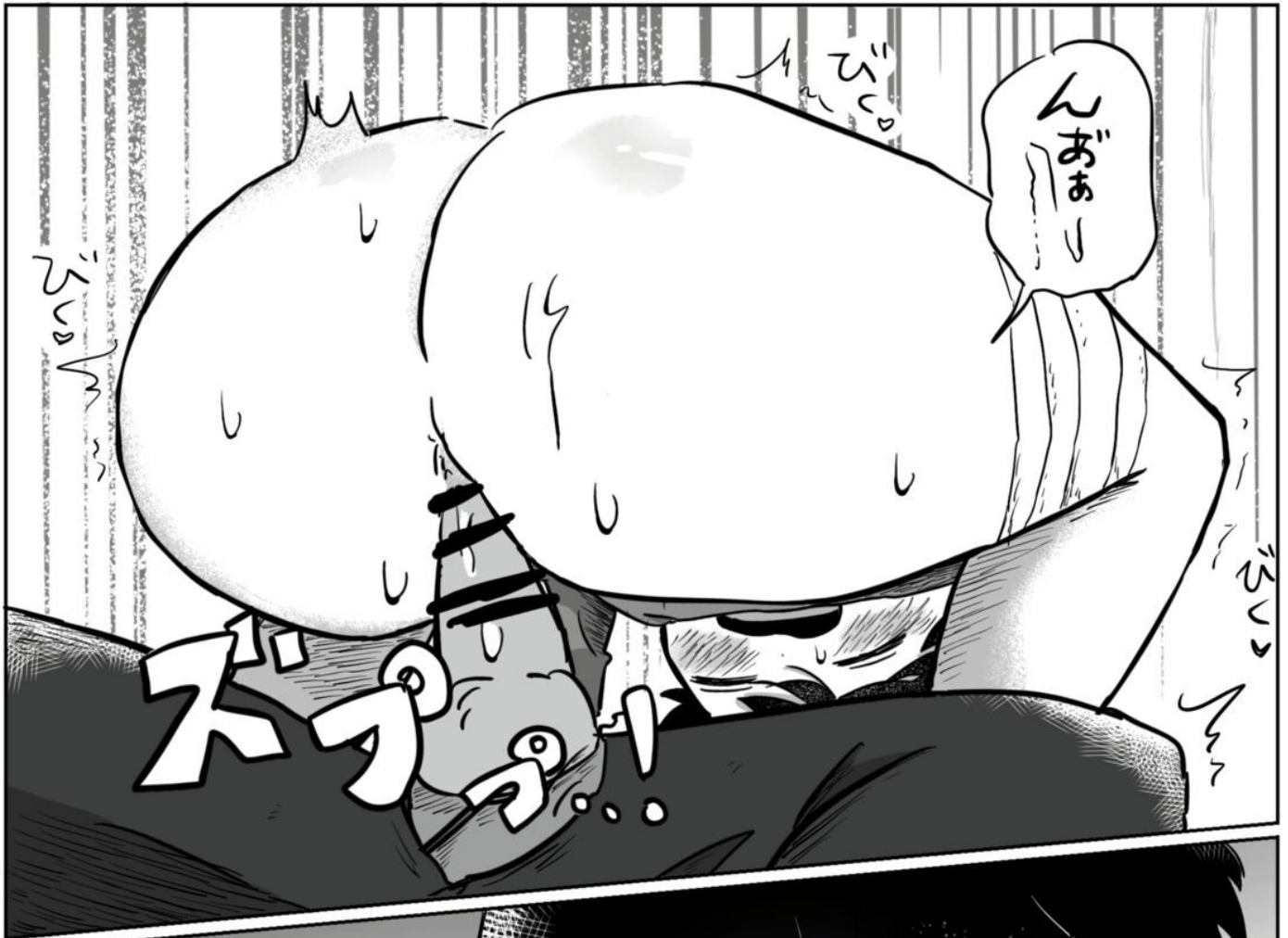






















しゅうちゃんへ

お元気ですか?



お返事遅くなって  
ごめんね



読みにくい文字で  
ごめんね

最近ふと  
思うことがあります



ぽた..

病気になったのが  
しゅうちゃんじゃなくて

おれで良かった

どんどん  
弱っていく  
しゅうちゃんに


きつとおれは  
耐えられない

だからおれよりも  
強いしゅうちゃんが  
そっちの役に  
なったんだよ

ズザッ!

しゅうちゃん、

ギョ...



おれはしゅうちゃん  
が  
大好きだよ

心の底から  
大切に思うよ



ずっと一緒に  
いられたら  
いいのになあ

耐えられなかった



見たことのない  
美鷹の表情も

腐った肉の  
臭いも

忘れがたい  
快感も

たかだか  
十五歳のおれには、もう

ありがとう  
しゅうちゃん

全てが  
限界だった



この日の夜、美鷹は  
大量の農薬を飲んで命を絶った

その知らせがおれの耳に入ったのは  
それから一ヶ月が経過しており  
あの島に住む人々の人権の無さを  
改めて思い知ったのだった

窓の外では雪が  
塵カスのように  
静かに静かに舞い始めた頃だった

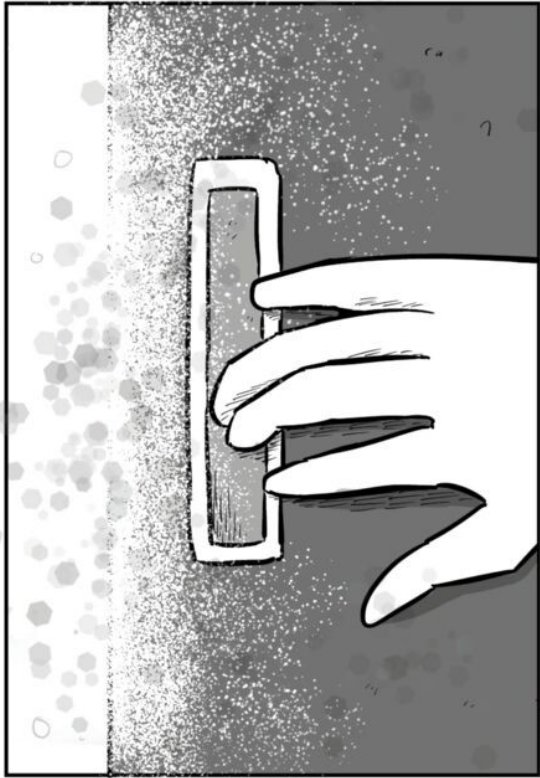


さようなら

しゅうちゃん

しゅうちゃん

しゅうちゃん  
みたくあ





美鷹

しゅーちゃん  
ミ



おれ：  
お前のピアノが  
一番すきだよ



だから、さあ

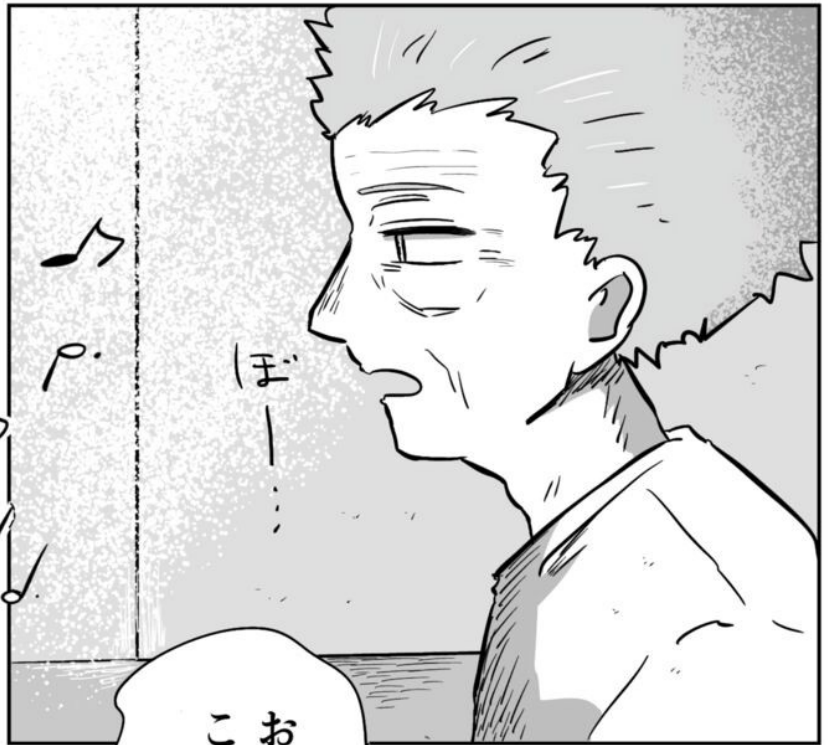
もっと  
聴かせて……

もっと……

「やっ……」







おい  
この曲…!



わーじーちゃん  
起きたの!!

ガタ!

いやあの  
これは…



あせ

あせ

あせ

ちょっと弾いてみたくなって...

森野美鷹

あ!でもちゃんと発表会の曲も練習してるし!!

美鷹



この楽譜は?

ああこれは今日  
りく達と幽霊屋敷に  
行った時に...

行っていない!  
行っていない!

どしたんかなあこれ  
あはははは

そうか...



じーちゃんは  
とても優しくて  
ちよっと厳しくて

そんなじーちゃんの  
泣いてる顔

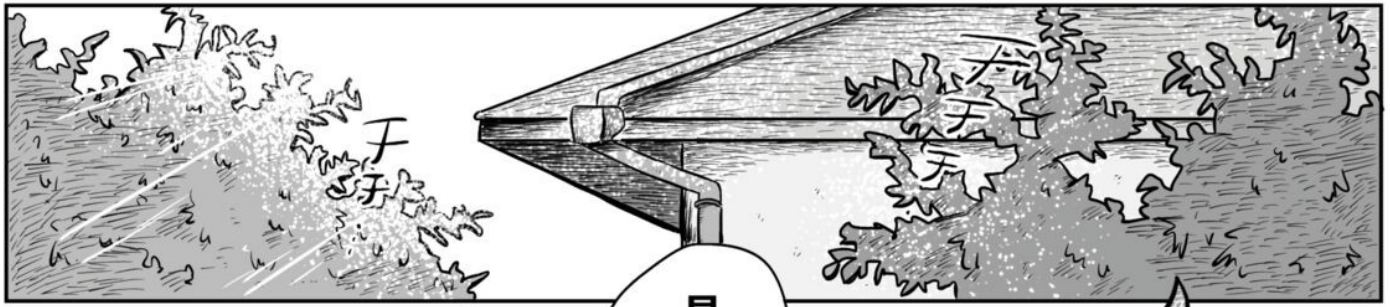


ワシの孫が  
これを弾くか...

見たのは今日が  
初めてだったんだ

なんと残酷な

そうか...  
そうか...



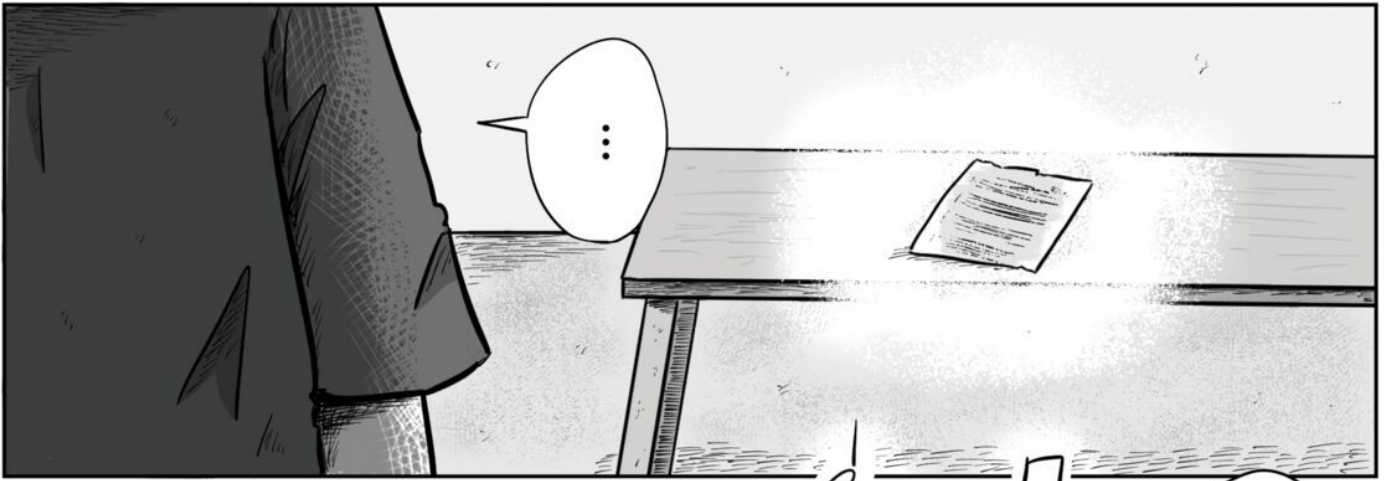


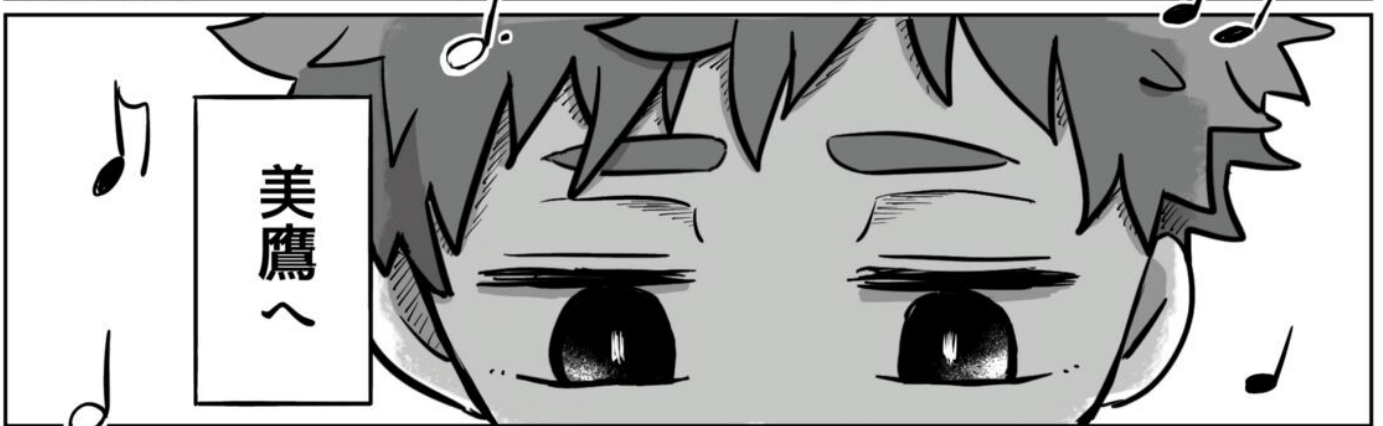
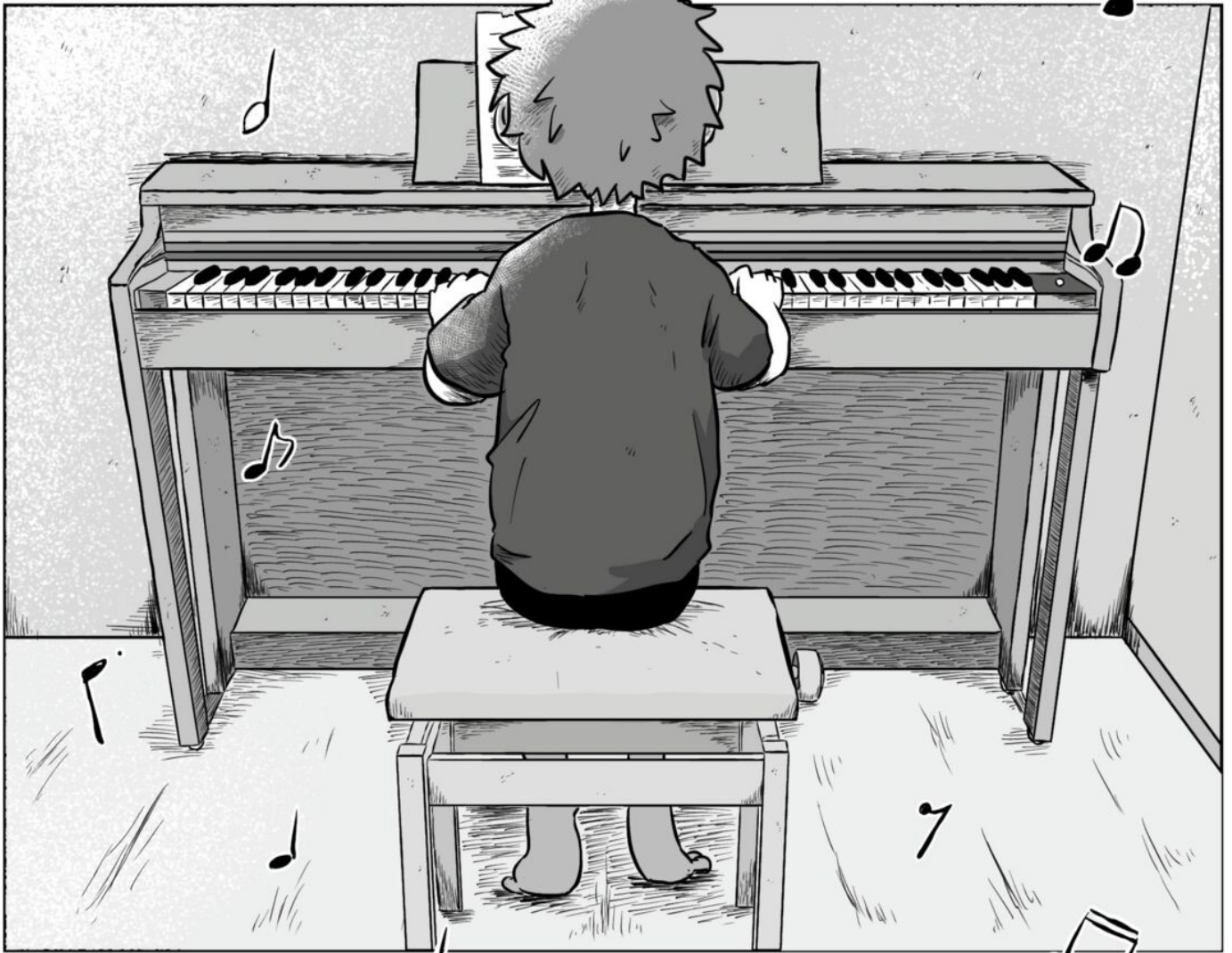
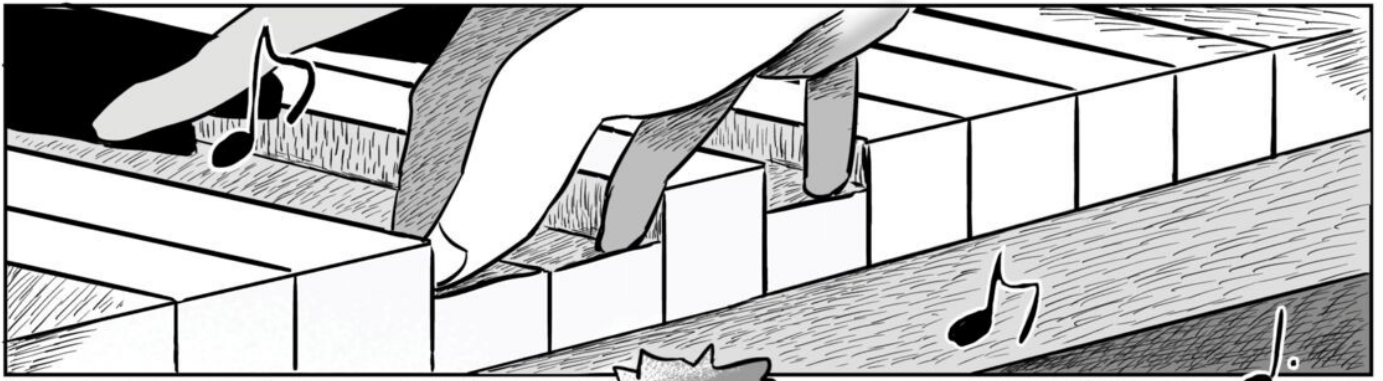




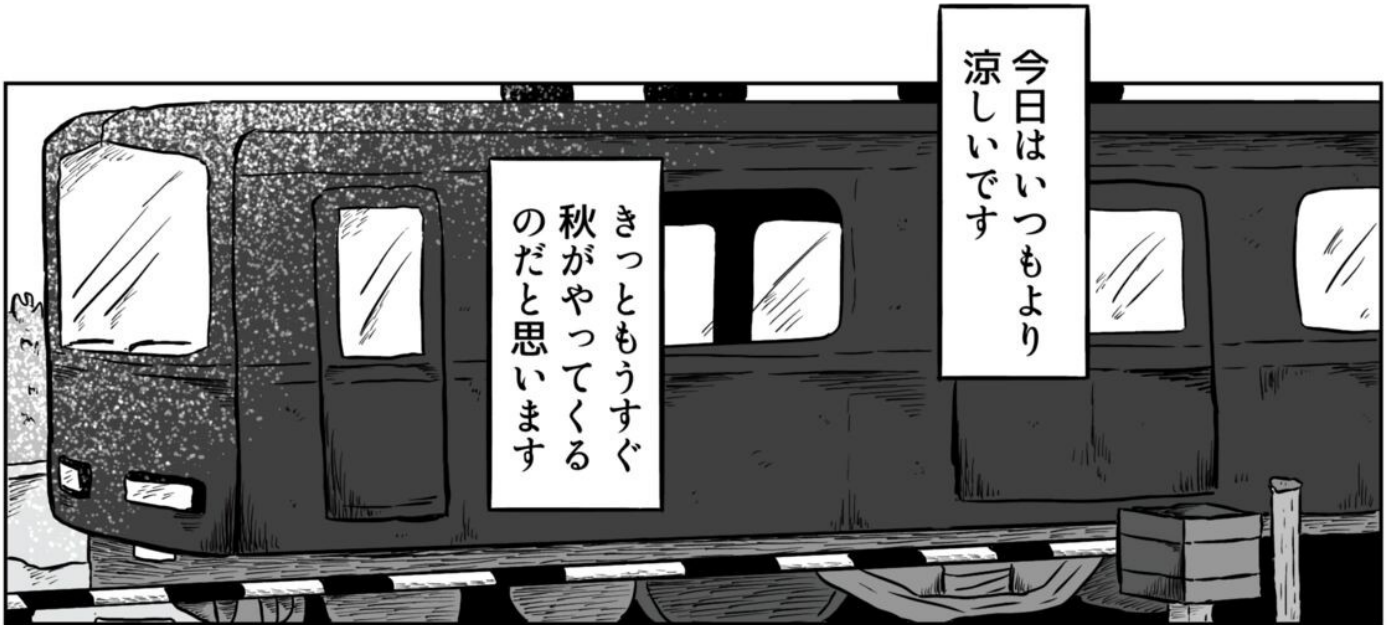


行ってきます





美鷹へ



今日はいつもより  
涼しいです

きつともうすぐ  
秋がやってくる  
のだと思います



昨日美鷹の曲を  
聴きました

また聴ける日が来るなんて  
夢にも思いませんでした

誰が弾いてたと思う？



おれの孫が  
弾いてたんだ

美鷹のことあんなに  
好きだったのにな

結婚して子ども作って  
孫まで…




美鷹…

美鷹との思い出にずっと  
蓋をし続けてごめんなさい

本当は  
大好きな美鷹が  
病に蝕まれていく様が



怖くて怖くて  
仕方なかった




あれは良い薬が出来て  
治る病となり  
辛く苦しかったであろう差別は  
殆ど無くなりつつあります

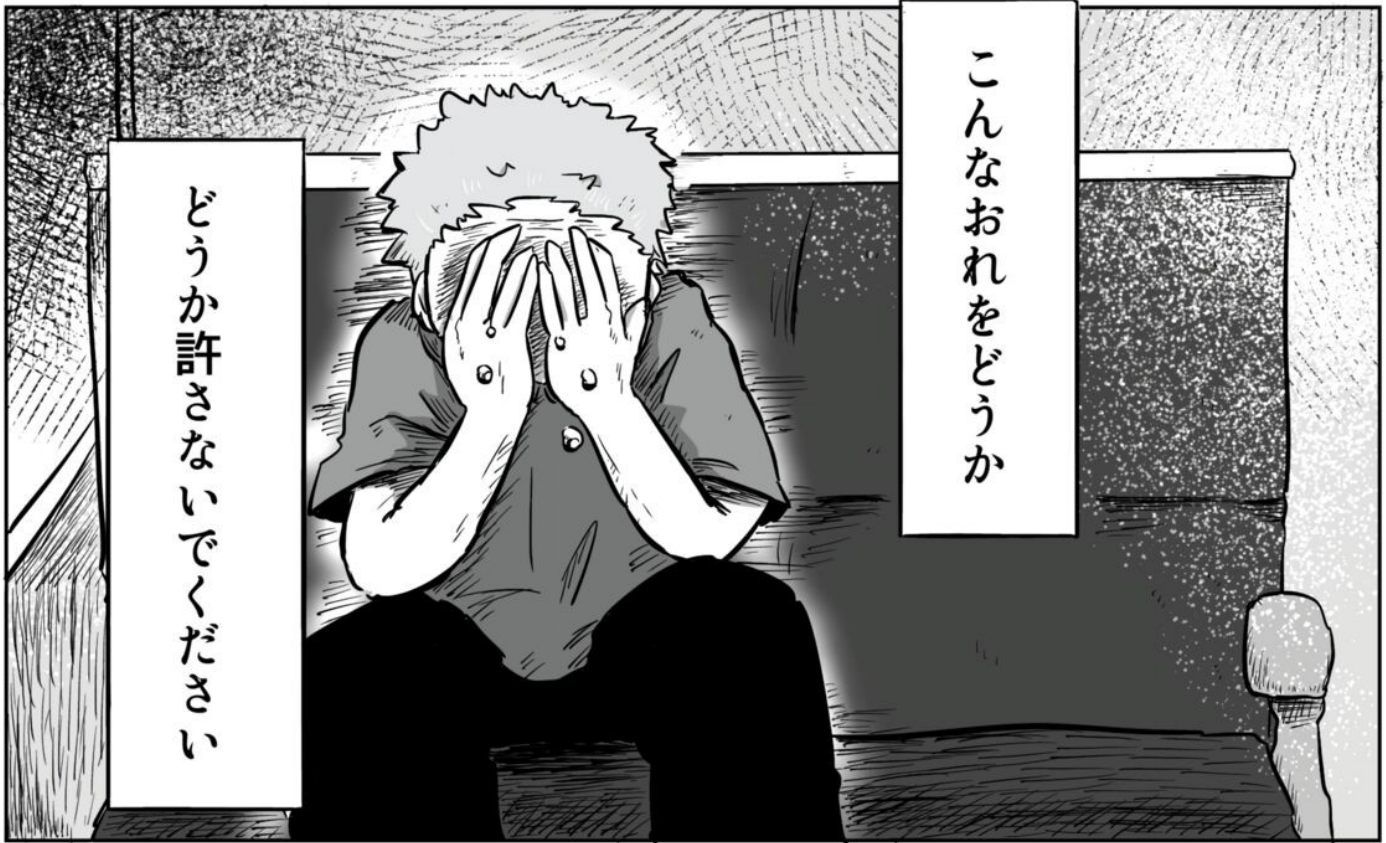
美鷹にもそんな未来を  
見せてあげたかった

どんな姿になっても  
美鷹は美鷹

おれの大切な人には  
変わりなかったのに…

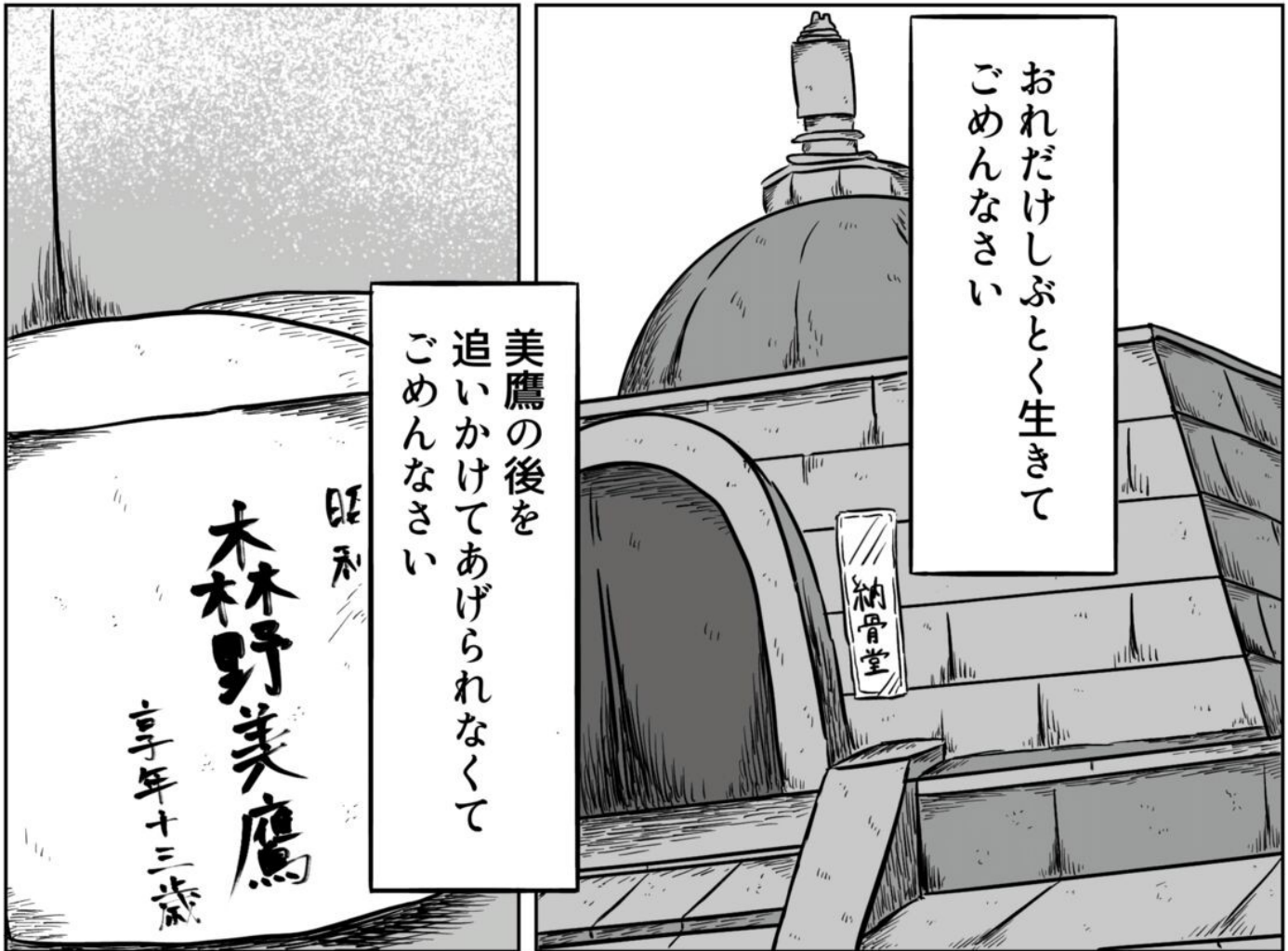


どうしてあの時  
そう言って抱きしめて  
あげられなかったんだろう



どうか許さないでください

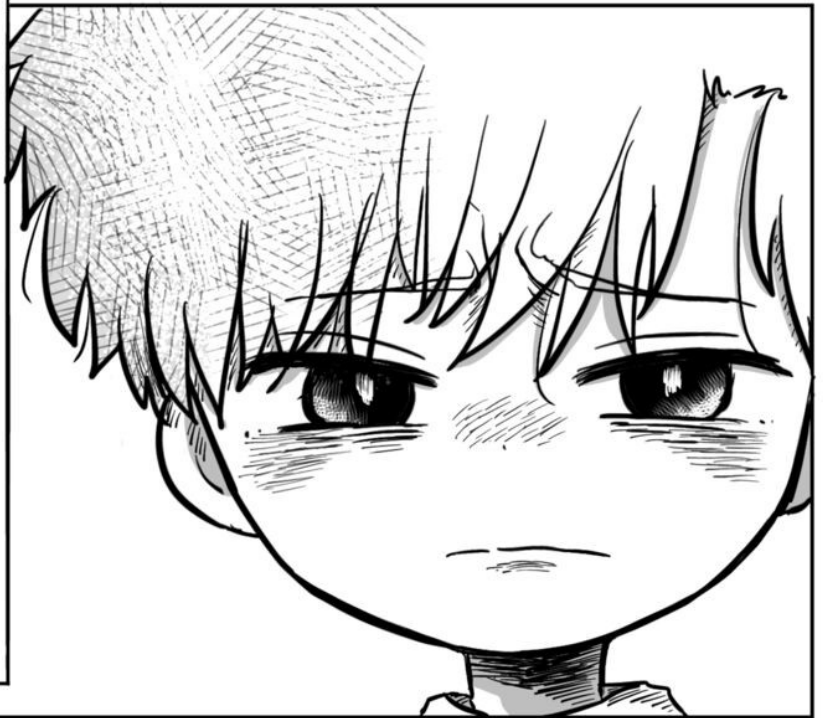
こんなおれをどうか



おれだけしぶとく生きて  
ごめんなさい

美鷹の後を  
追いかけてあげられなくて  
ごめんなさい

昭和  
木野美鷹  
享年十三歳



でもそんなこと言ったら  
きつとお前、怒るだろ？



しゅうちゃんは  
笑っていなよ、って  
きつとそう言うだろ？



おれもそろそろ  
そっちへ行きます

その時がきたら  
どうか教えてください

祈りを

(仮) 木

あの日々の  
全てを

美鷹の思いを

祈りを繋ぐ(仮)

美鷹の祈りを

倫太ー!  
朝ご飯たべよー

はい

そしてどうか一緒に  
祈らせてください

悲しみのない明日が  
つながっていく未来を





笑顔の絶えない  
そんな未来を

美鷹と一緒に  
ずっと、ずっと